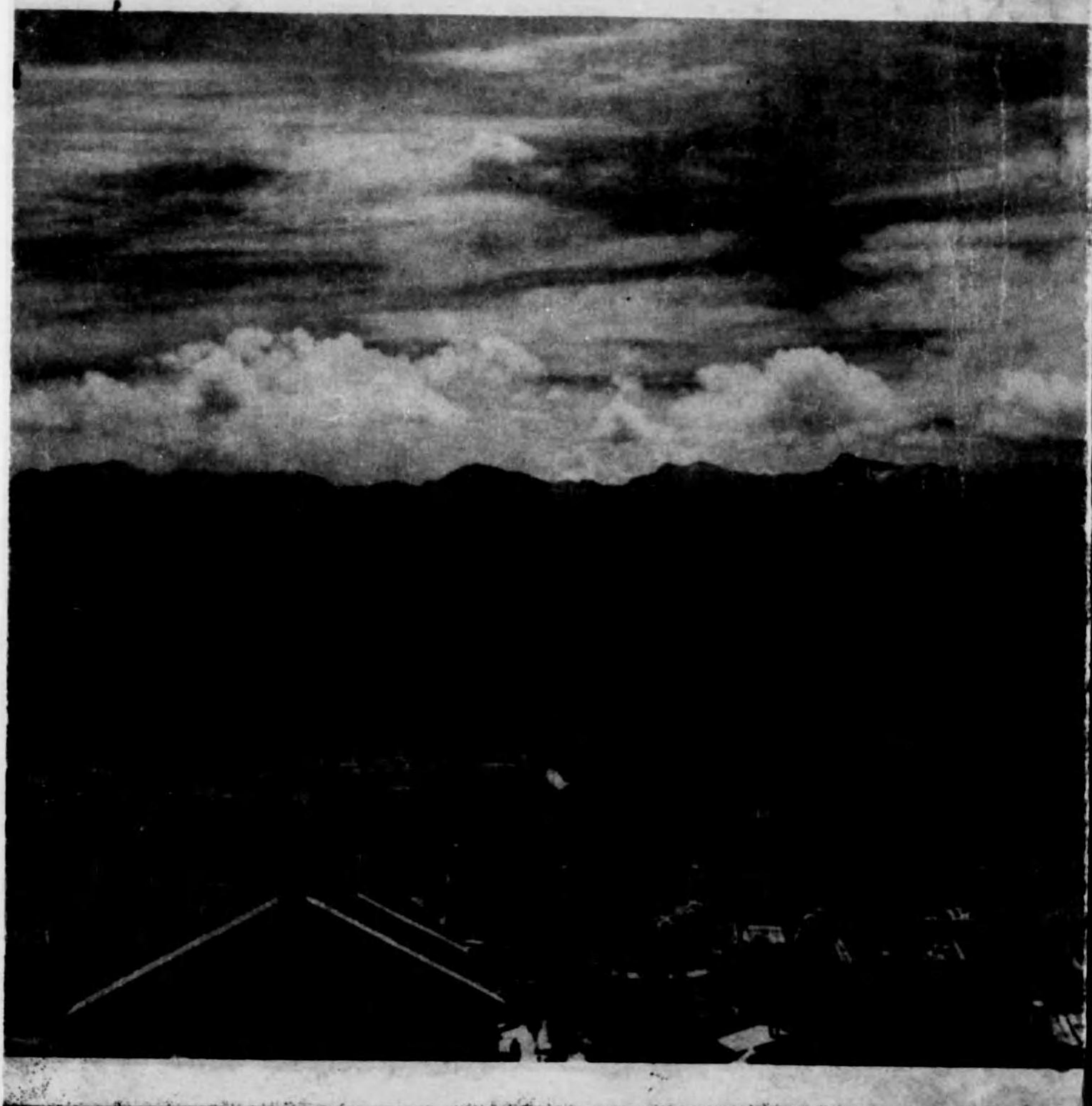


覽要市義嘉

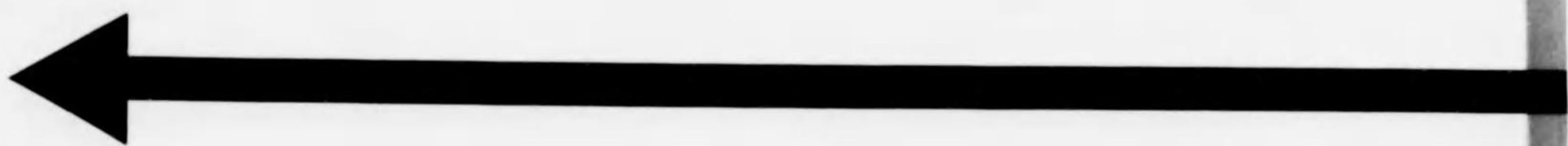
特276  
608



所役市義嘉



始



特276  
608

嘉義市要覽目次

第一章	總說	一
一	稱呼	一
二	沿革	二
三	位置、地勢、氣象、廣袤、面積	三
四	行政區域	四
五	都市計畫	五
第二章	自治	五
一	市役所	五
二	市會	六
三	歷代市尹	六
四	市有財產	七
五	歲入出豫算	八
六	歲入出豫算	八
七	租稅及負擔	九
八	戶數	九
九	人口	九
十	一般的職業	一〇
第三章	戶口	一〇



222.4

次目

第四章 交通

- イ 鐵道(官線私線).....二
- ロ 阿里山營林所線.....二
- ハ 道 路.....三
- ニ 橋 梁.....三
- ホ 自動車、人力車、台車.....三

第五章 通信

- イ 郵便、通常郵便物、小包郵便物、郵便貯金.....一五
- ロ 電信、電話.....一五

第六章 教育

- イ 小、公學校、幼稚園.....一七
- ロ 中女學校、實業學校.....一八
- ハ 公民教育.....一九

第七章 産業

- イ 産業概観.....二〇
- ロ 工 業.....二〇
- ハ 商業、市場、金融.....二二
- ニ 農業、林業.....二二
- ホ 畜産業、水産業.....二二

次目

第八章 保健衛生

- ハ 會社、工場.....二六
- イ 概 要.....二六
- ロ 上 水 道.....二六
- ハ 下 水 溝.....二六
- ニ 地下水状況、井戸之状況.....二六
- ホ 醫療機關.....二七
- ヘ 傳染病、種痘、マラリヤ其他.....二七
- ト 墓地、火葬場.....二七

第九章 社會事業

- イ 方面委員及其他.....二七
- ロ 隣保館之事業.....二七

第十章 警 備

第十一章 官公署其他銀行、會社、組合

第十二章 觀光關係土産品、其他の店名紹介

第十三章 觀 光

- イ 市内遊覽案内.....二八
- ロ 近郊遊覽案内.....二八



第十四章 市役所係系團體

- ハ 新高、阿里山案内.....七
- ニ 市内旅館案内.....六
- ホ 山地方面旅館山莊案内.....六
- ヘ 嘉義名物、たべもの紹介.....六
- ト 嘉義ゴルフ場.....六
- イ 阿里山國立公園協會.....六
- ロ 嘉義地方振興協會、名物たべもの紹介.....六
- ハ 嘉義市部落振興會事業概況.....六

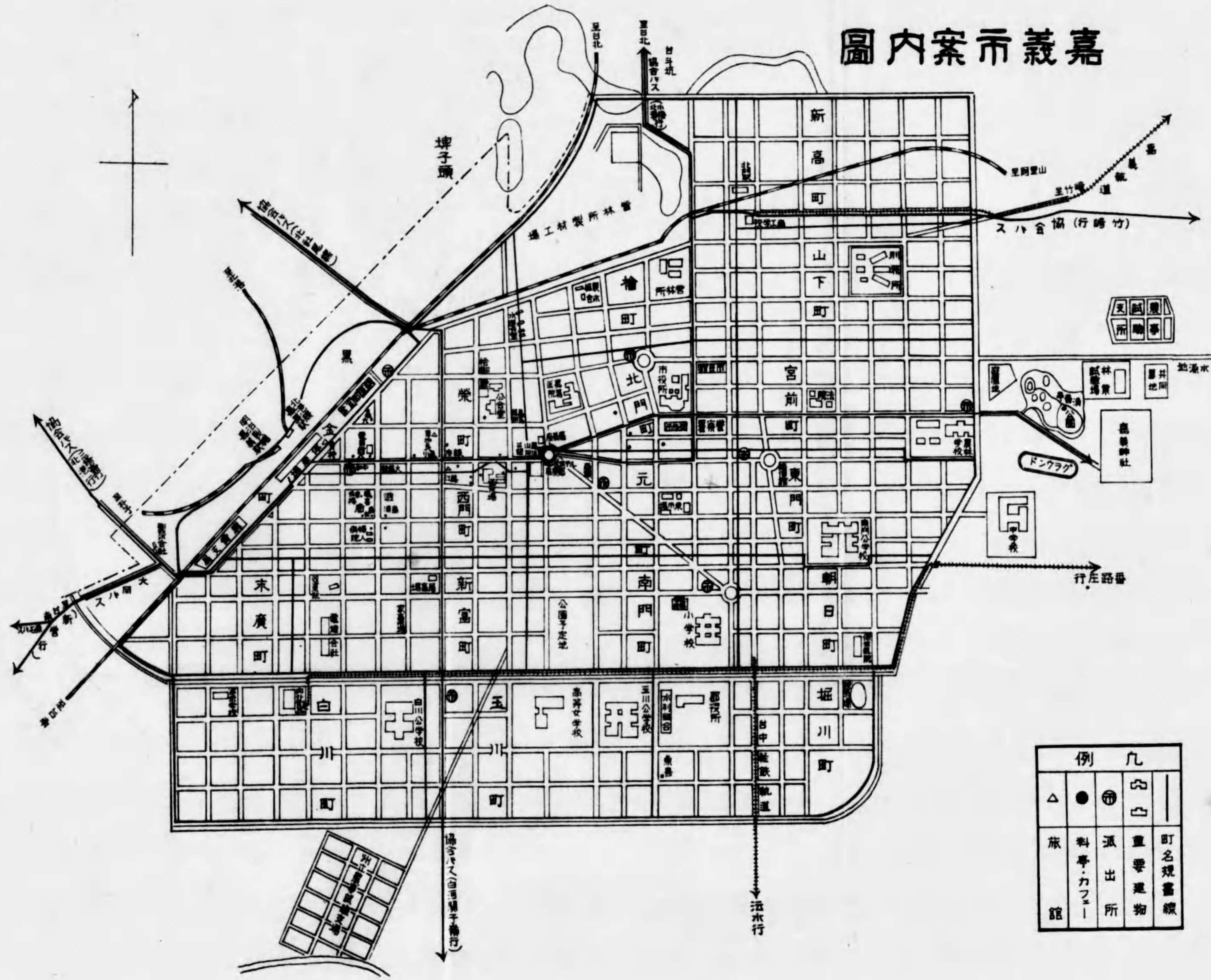
嘉義市人口及戸數

(昭和十年十二月末現在)

人口 七三、一八〇人  
 戸數 一五、〇三九戸

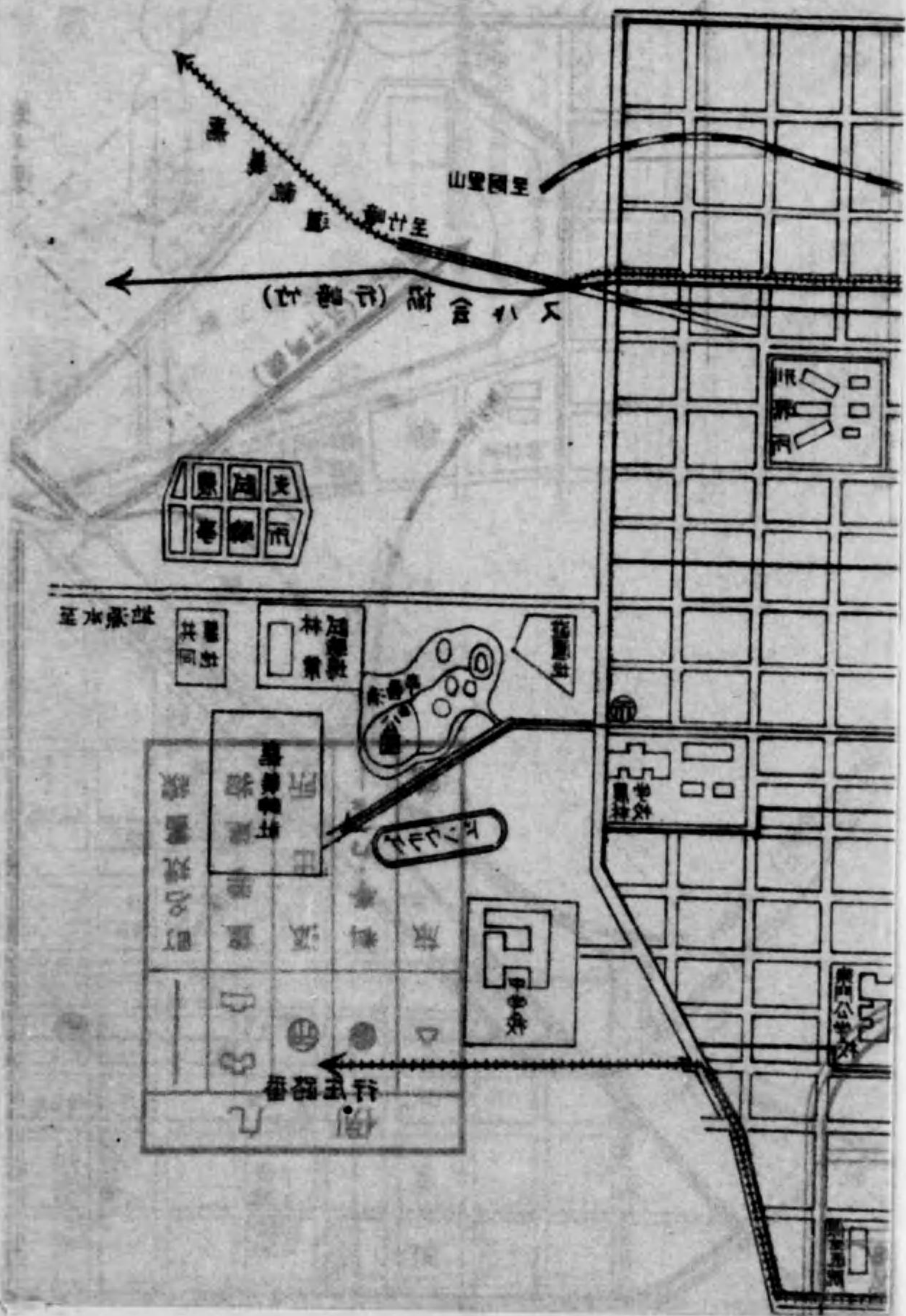
内地人	九、四六四人	本島人	六一、八一四人
朝鮮人	六七人	外國人	一、八三五人

# 嘉義市案內圖



例		凡	
△	●	⊙	⊕
旅館	料亭・カフェ	派出所	町名規畫線

# 嘉義市案内圖



## 第一章 總說

### 稱呼

### 嘉義

日本一の靈峯新高を戴く蓬萊島臺灣。僅々四十有一年の治政宜しきを得て文化に、産業に、隆々たる發展の一路を辿り世界列國等しく驚異の眼を以て之を迎ふるに至つた。加ふるに非常時日本の南方生命線確保の重任は我臺灣に課せられた明日の使命となり、飛行隊の創設せられんとする我嘉義市も亦、國防上其任いよく重大性を帯ぶるに至つた。茲に既往三百年の往昔より今日に至る嘉義の開拓史をめぐり、其の概要を述ぶるも亦意義ある事と思ふ。

紀元二千二百八十三年、オランダ人が本島の一部を占據して以來政治らしいものが行はれた。此れが本島政治の濫觸とも謂ふべきであらう。其後三十年にして鄭成功が來征し、オランダ占據の時代は終りを告げ、鄭氏三代二十二年、其の覇業も亦空しく消え、臺灣の覇權は清國占有の時代を續け來つたのである。我嘉義地方も、蘭人占據時代に最初の行政を布かれ、鄭氏

嘉義市役所



の時代に入つては、天興縣と稱した。現在の東石郡佳里興は縣置の土地である。

鄭氏勢力の没落後、清國の統治下の入り、嘉義地方も亦必然其の管轄下におかれ、諸羅縣と改稱し、縣を當地に移し、此處に築城したのである。乾隆五十一年、林爽文の乱にあひ、諸羅縣の官民協力防戦して諸羅城を死守し事なきを得た。此の事時の乾隆帝の知る所となり、其の義舉を嘉せられ「嘉義」と命名され今日に及んでゐる。當時、諸羅城を嘉義城と改め其後二百十餘年の星霜を経過し、明治二十八年六月我が領有に入つたのである。

### 沿革

全島屈指の大嘉義停車場。坦々たるアスファルトの道路。整然たる市街の大厦高樓。ネオン輝く夜の嘉義銀座。わけて新高の山嶺を仰望しつゝ朝夕を送る八萬市民と八十餘萬の近郊の人々を吞吐する大嘉義市も、思へば今より四十一年前の昔に遡ると、野鳥の群れ遊ぶ原野の中の一寒村にしかすぎなかつたのである。明治二十八年六月十七日、始政の式典を舉行せられて以來、阿里山の發見あり其後嘉義廳二十年五代の廳長を迎へ、大正九年制度改正に伴ひ、嘉義街の組織を見るに至り、初代街長眞木勝太氏の十年に亘る街政の努力精進、稍々面目を一新し大嘉義市として「スタート」する基礎を醸成し、昭和五年一月二十日市制施行。嘉義市の面目を更新する機會を與へられた。爾來政所、松岡、廣谷の歴代市尹があり、現在川添市尹が市政を管掌してゐる。躍進途上の嘉義市往年の人口に比し累年増加し現在約八萬を數ふるに至つた。今や嘉義飛行聯隊の設置と共に、全島躍進振りは全島中其の比を見ざるものがある。

### 位置

嘉義市は東經一二〇度二六分五九秒、北緯二三度二八分四六秒に位し、臺灣本島の畧中央臺南全州中稍北方に位置してゐる。舊嘉義廳下六郡の中心にあり、東には千古に魏峨たる日本のエース新高阿里山の秀峰を仰觀し、西は嘉南の大平野を一望の裡に指呼し、南に八掌溪、北は朴子溪の溪流を以て境界とする。

### 地勢

當市最高地點海拔一四七米六を起點とし、に一大緩傾斜を爲せる地帯にして、東部は三、九五〇米の新高主山をはじめ、北山、東山、南玉山、錢頭雁山、阿里山彙の尾根が屏立し、西北は米、臺灣産業の大宗たる砂糖の主要産地たる嘉南平野あり。出ては、東石、北港兩郡を距て、臺灣海峡に及んで居る。南には虎頭山枕頭山屏立し、南の平野を劃して關子嶺温泉を其の山懷に抱き、近く凍子脚の大石油坑を招え山地に平野に産業經濟上の地の利を占めてゐる。

### 氣象

北回歸線標の存在する當嘉義市一帶は亞熱帶地である。然しながら海風、驟雨によつて氣温を調節せられ、平均溫度華氏七、四、五度、最高九三、二度、最低三九、二度程度で最高は毎年九月初旬、最低は毎年一月下旬頃である。雨量の平均は一、九〇四、四耗、一日の最多雨量は二一六〇耗を記録され、降雨期

の季節は概して六、七、八月の候で、乾燥期、降雨期の別に区分し得られる熱帯獨特の氣象である。

嘉義神社

**廣茅、面積**

市の廣袤は東西三、〇九里、南北二里其の面積約三、六二方里である。其内譯を示せば

田 地	.....一千六百三十二甲
畑 地	.....千八百八十一甲
建物敷地	.....四百六十二甲
山 林	.....五百十三甲

其他を合し約五千三百甲（一甲歩二九三四坪）の地は大嘉義市將來の發展に多分の天恵と余裕を與へてゐる。



**行政區域**

當市は左の市内拾七町市外拾五字の區劃より成る。

- 新高町、山下町、宮前町、東門町、檜 町、北門町、元 町、朝日町、南門町、榮 町、西門町、
- 新富町、末廣町、黒金町、堀川町、玉川町、白川町、山子頂、盧 厝、紅毛埤、臺斗坑、後 湖、

- 埤子頭、北社尾、竹園子、車店、下路頭、劉 厝、港子坪、柴頭港、竹子脚、大溪厝、

**都市計畫**

嘉義市は臺灣中部産業の中心地として明日の發展を約束されてゐるのである。近時商工業農産業の發達に伴ひ、市街の整備が緊急を要する事は言を俟たない。又年々幾多の計畫を進められつゝある事は、何人も首肯出来る事實である。併しながら領有後の状態を見るに、明治三十五年市區改正の議ありしも實現を見るに至らず、翌年度市民の寄附によつて一部の改修、改築工事が行はれてゐる。之を楔期として明治三十八年、實測の上市區計畫を樹立て、總督府に稟申したのであつたが詮議洩れとなつた。然るに明治三十九年三月、彼の大震災に遭遇し、殆んど大半の家屋は倒壊の悲運に直面した。此の慘狀を目撃したる督府は、市區改正の急務たる事を痛感し、はじめて計畫實施を認められたのである。茲に於て嘉義廳令第十四號を以て都市計畫第一期分を施行。爾來幾變遷、時勢の推移と共に新なる計畫案を以て此の方面の努力を緩めず、大正十三年二月十三日臺南州告示第十號を以て認可せられるに至つたものが、大嘉義市都市計畫案の根幹となつたのである。其後幾星霜、現在、其の七割を完成し、今尙明朗なる、嘉義市街の建設行進曲は奏せられつゝありと雖も、猶更に大計畫の樹立を必要とする状態にある。

**第二章 自治**

**市役所**



市の行政組織は、市尹、助役の下に課、係を設置し各市政事務を主管してゐる。

今日に於ては、凡ての組織は系統的分掌を以てなされるもので、市の行政機關も亦、分課組織の如何に依つては、能率、効果に非常なる影響を及ぼすことは今更言を要しない所である。今回、當市に於ても此の見地から去る昭和十一年六月十三日事務分掌規程を左の通り改正し、一層市政の圓滑なる運用を期してゐる。

- 庶務課 ..... (庶務係、文書係、兵事係)
- 教育課 ..... (教育係、社會事業係、社會教育係)
- 勸業課 ..... (商工係、市場係、農務係)
- 土木水道課 ..... (庶務係、土木係、營繕係、水道係)
- 衛生課 ..... (衛生係、防疫係)
- 稅務課 ..... (賦課係、徵收係)
- 會計課 ..... (計理係、調度係)

而して課に課長、係に係長が置かれてゐる。市職員の一部は約百五十餘人で市政の運用に支障なき様、萬全を期してゐる。

### 市會

昭和十年十月一日、臺灣地方制度改正による、劃期的自治制が施行せられ、昭和十年十一月二十一日市會議員の第一回選舉が執行された。當市の議員定数は二十八名で、其の半数は任命議員、半数は民選議員

である。此の選舉に於ては名簿登載有権者數、投票當日有権者數、投票を行ひたる有権者數は左の通りである。

- 名簿登載人員 ..... 三、九七四名 (本島人 二、三九九人 内地人 一、五七五人)
- 投票當日有権者數 ..... 三、九三二名 (本島人 二、二六二人 内地人 一、五四四人)
- 投票をなしたる人數 ..... 三、七二二名 (本島人 二、二六二人 内地人 一、四六〇人)

此の計數に依つて當市に於ける地方制度改正による選舉の状況を見れば、九割強の好成績を示してゐる。如何に一般市民が自治行政に關心を有してゐるかが覗はれるもので、國民として意を強うするに足るものがある。尙ほ、當市に於ける臺南州協議會員は、左の七名が任命せられてゐる。

早川直義、勝田素章、小西國平、頼雨若、眞木勝太、白井一、加土峰吉、  
市會議場としての建造物は未だ之を有せざるも、所内會議室乃至嘉義公會堂を之に充てつゝある。近く協議會員の任期満了と共に自治制最初の州會議員の選舉も行はれる事になつてゐる。

### 歴代市尹

- 初代市尹 自昭和五年一月二十日 至昭和六年五月十六日 政所重三郎
- 二代市尹 自昭和六年五月十六日 至昭和七年四月二十一日 松岡一衛

三代市尹  
四代市尹

自昭和七年四月二十一日  
至昭和八年十月三日  
自昭和八年十月三日  
現職

廣谷致員  
川添修平

市有財産

- 一、土地之部.....七七三、〇六二、三五
- 二、建物之部.....一、九一四、二五四、五二
- 三、資金之部
  - イ 公設質鋪.....七二、〇〇〇、〇〇
  - ロ 魚市場事業資金.....八、〇〇〇、〇〇
  - ハ 退職給與金並ニ遺族扶助料蓄積金.....二、六三四、九二
- 小計.....八二、六三四、九二
- 總合計.....二、七六九、九五一、七九

歳入出豫算

市歳入歳出豫算 (昭和十年度)		市歳入歳出豫算 (昭和十年度)	
經常部	臨時部	經常部	臨時部
五九、七六〇・〇〇	二八、一七六・〇〇	四四、三三〇・〇〇	四〇、六九一・〇〇
計入		計出	
八八、九三六・〇〇		八八、九三六・〇〇	

租税及負擔

市歳入歳出豫算 (昭和十年度)		市歳入歳出豫算 (昭和十年度)	
經常部	臨時部	經常部	臨時部
九二、一〇一、九〇〇	四、六三三、〇〇〇	四四、三三〇、〇〇〇	四〇、六九一、〇〇〇
計入		計出	
九六、七三四、九〇〇		九二、〇一九、〇〇〇	

種別	種別	種別	種別
國稅	州稅	市稅	公課
額	一戶	當	一
一、一〇、一五四	二、四三、八四九	一、六九三	一、五七
二、四三、八四九	一、八八、五〇二	二、三二四	三、四七
二、四三、八四九	二、九、六六三	二、〇〇八	二、六九
二、四三、八四九	五、七二、七二七	三、九三三	八、二五
計	計	計	計
九二、一〇一、九〇〇	九二、一〇一、九〇〇	九二、一〇一、九〇〇	九二、一〇一、九〇〇

第三章 戶口

種別	戶數	人口	
		男	女
計	計	計	計

人口	内地	本島	朝鮮	外國	外計
	二、五三三	二、〇三〇	七	一、四四〇	一五、〇三九
	四、八四七	三、四七三	一、一三三	三七、五六六	
	四、六一七	三〇、三四三	五	三五、六一四	
	九、四六四	六二、八二四	六七	七三、一八〇	

年別	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年
人口	五七、九六〇	五九、八二〇	六二、九六三	六六、八五三	七〇、〇九三	七三、一〇八
戸数	一二、七〇七	一三、〇一八	一三、五〇八	一三、九二四	一四、三四四	一五、〇三九

**一般的職業**

現在市民の職業は轉業等の爲に確實を期し得ざるも、農業戸數約二千二百二十戸、商業の戸數八千六百八十二戸、工業に従事する者二千百十六戸餘で、其他公務、社員、雜業に従事する者が大半以上を占めてゐる。

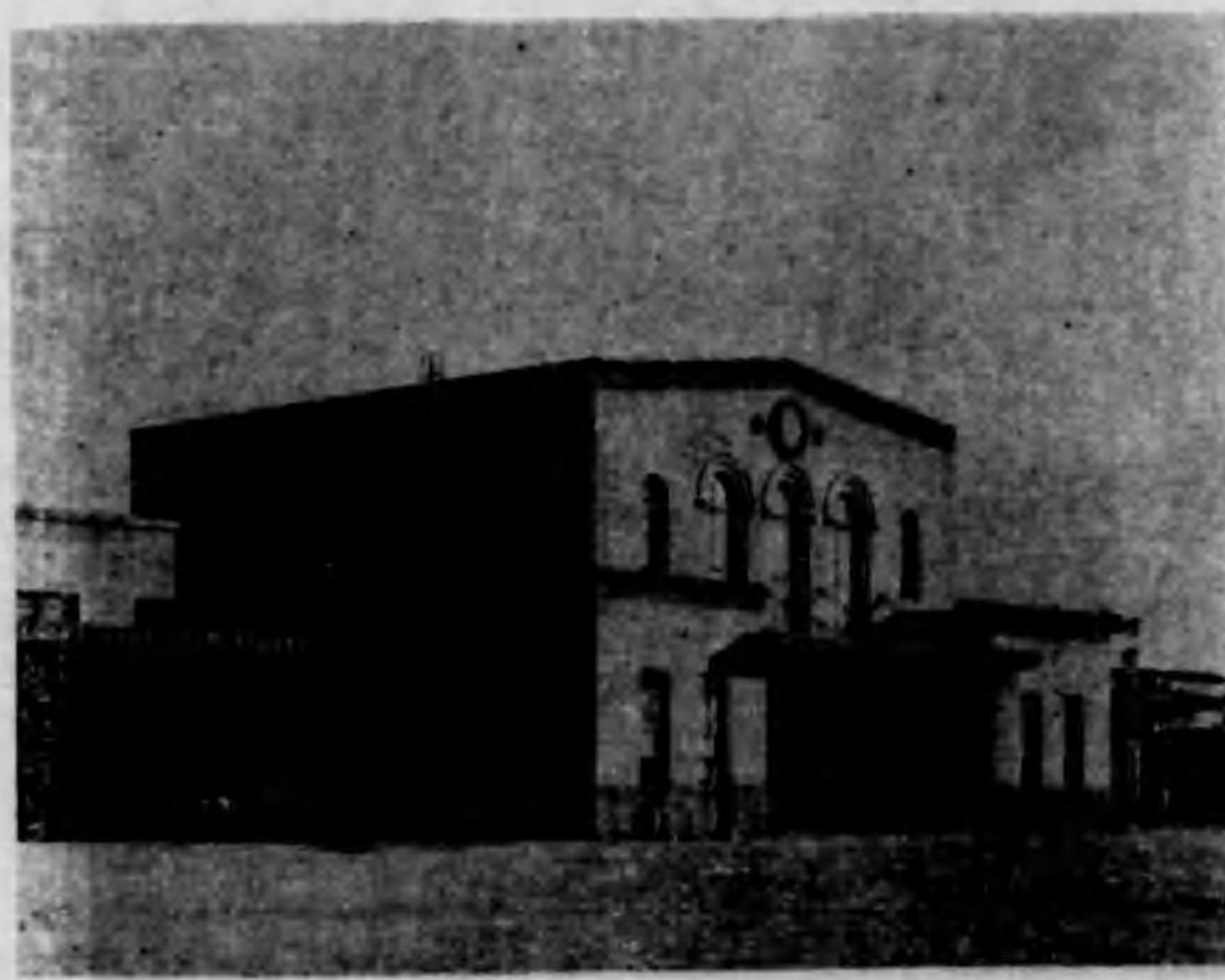
**第四章 交通**

**官線**

嘉義市の表玄関である縦貫線嘉義驛は、現代建築様式を以つて建設せられ、市街表入口の一偉觀として全島に誇り得るものである。一面貨客の取扱高於ても全島中の四、五位を占める隆昌さて嘉義市の名に相應しいものがある。此の嘉義驛を中心として各種の交通機關此處を基點として四通八達、蜘蛛の巣の様に放射せられてゐる盛況で、市の毀賑さを如實に物語つてゐる。

嘉義驛

**私線**  
社線に明治製糖株式會社經營朴子線、大日本製糖株式會社經營北港線がある。何れも嘉義驛ホームと相接して製品の輸送を主なる目的とし、一面交通運輸の便を計りつゝある。列車に配するに機動車あり交通又至便である。



### 阿里山線

阿里山線は、彼の有名な阿里山木材の搬出を目的として創設されたもの、今日では全長（嘉義—新高口間）八〇軒餘、日本一の高山鐵道で僅々數時間に熱帶、暖帶、溫帶、寒帶の各帶に接し、恰も赤道直下より北極の北半球を旅行するが如く、沿道には氣候に因り轉々變化する植物を望見し得られる特色を有し、世界一と稱しても敢て過言ではない。獨立山のスパイラル線、二萬坪附近のスキツチバツク、神木附近の大原生林、塔山の斷崖、登山客は此の大自然の壓倒的景觀に恍惚として仙人境に遊ぶの感を深ふするであらう。



登山鐵道（阿里山線）

### 道路

年度別	高級舗装	簡易舗装	砂利	敷	計
八年度	四、五六・八〇	三、二四八・一八	三、七九・〇〇		六三、四三三・九八

年度	九年度	十年度	計
七、〇一〇・五〇	一	五、一〇〇・〇〇	五、二九七・三〇
一		八、二二〇・〇〇	三、六〇九・〇〇
八、三八〇・五〇		八、七三〇・〇〇	八〇、六四〇・五八

### 橋梁

嘉義市橋梁として、混凝土橋二十七ヶ所が架せられてゐる。其内、白鷺橋は全長二〇三、一〇米、全市六米あり、八掌溪に架設せられ橋梁中代表的のもの十五ヶ所、指定道路外のもの四ヶ所となつてゐる。尙木橋、石橋は指定道路に八ヶ所架せられて居り、指定道路以外には、木橋二十二ヶ所、石橋一ヶ所、鐵線橋一ヶ所（全長五百九十尺全巾二尺四寸）が架せられ、市内外近郊との交通には最善の注意を拂つてゐる。近く又市の培養線たる北港道路には、高級舗装が行はれんとする現狀である。

### 自動車交通

嘉義市を中心として、バスの經營をなすものに、嘉義地方振興協會バス、交通局々營バス、嘉義自動車バス、臺中輕鐵バス、大同自動車バス等がある。目下の嘉義市の交通網は完璧の域に達してゐる。嘉義地方振興協會バスは財團法人組織でバスの運行は其の一部門に過ぎないが、將來性のある會と云ふ事が出来る。此の會の主なる運行路線は左記の通りで市近郊路線中樞要のものである。

協會バス



- 1 市内線
- 2 關子嶺線
- 3 竹崎線
- 4 小梅線
- 5 北港線 (民雄經由)
- 6 北港線 (月眉潭經由)
- 7 北港三條崙線 (夏期のみ)
- 8 白河線

臺中輕鐵バスは、吳鳳廟參詣になくてならぬ觸口線と、近時石油を以て開發せられんとする凍子脚行を主線とする沅水線を有し、大同バスは嘉義—蒜頭間を運轉し、明治製糖工場との交通を補足してゐる感がある。

嘉義自動車バスは、白河線、斗南、斗六線を運轉し、斗六、斗南方面の近郊連絡の機關となつてゐる。

何れも大型バスを購入し、モーター車体を裝備し、大都會の交通に勞弊し、内地のそれに遜色なきものがある。現代の交通様式になくてはならぬ簡易輕便な機關である事は言を俟たない。市を中心とする道路計劃の完成に連れ、近郊各地、市内の來往は織る様な頻繁さで、其の發達は實に素晴らしい自動車萬能の態を痛切に抱かすにおられないであらう。交通局々營バスも嘉義—新營—臺南—岡山—高雄間の運行に従ひ單線運轉の列車の輸送能力を倍加し南部の交通はいよゝ／＼繁盛となりつゝある。

人力車、轎

人力車一五〇台、内自家用十二台、昨年に比し四〇台餘の増加である。臺灣特有の轎は今日市内にあつては殆んど一般に用ひられないが、祭典其他特殊の場合に使用されるのを見受ける。数は十七台である

台車

台中輕鐵株式會社の經營する觸口線(社口經由)並沅水線、内外食品株式會社經營の番路庄線、嘉義軌道株式會社經營の小梅線がある。何れも由地開發の重要な使命を有してゐる。

第五章 通信

郵便

昭和五年一月、市制實施以來一層の躍進振りを示した本市の繁榮と、通信力の消長とについて述べれば、昭和五年當時は市民一人當の郵便物差出平均數は二七通であつたのが、現在は四四通、配達は平均三一通が今日では四五通に増加し、逐年増加の狀勢にある。之を内地都會への發信八三通、著信八六通に比べると過少であるが聽ては同數程度に向上するものと思はれる。

通常郵便物

通	常	書	留	計	受	通	常	書	留	計	達
三、四八六六	六八、七八九	三、五四七五	五三、八〇八二	一九九、四八三、九〇	七、八九九						

昭和十一年五月末現在

## 第六章 教 育

### △小學校、公學校教育

嘉義小學校は(現旭小學校)明治三十三年五月の創立にかゝり、現在學級數は二五、兒童數一、五四八名であるが、市内に於ける内地人増加に伴ひ第二小學校設置の必要を生じ、白川町の地を選んで校舍を建築し昭和十一年九月一日若葉小學校の誕生を見るに至つた。

嘉義公學校は明治三十一年十月、國語傳習所跡を享けて開校し、大正六年四月女子公學校を分離し、序いで大正八年四月第一公學校、昭和七年四月玉川公學校と改稱され現在に及んでゐる。學級數二四、兒童一、六五二名。

東門公學校は昭和七年四月嘉義第二公學校を改稱せるもので、現在二六學級、兒童一、九二一名、白川公學校は昭和八年四月女子公學校を改めたもので、改稱と共に男女共學と學區を改定、現在二四學級、兒童一、七六八名を收容してゐる。北社尾公學校は市内唯一の農村公學校で大正十一年四月第一公學校の分校として創設され、昭和八年獨立。現在學級六、兒童數三六〇名。

就學歩合は内地人九九%、本島人男六一%、女三三%となつてゐるが、本島人の就學率は逐年増加の一途を辿りつゝある。

### △幼稚園

### 小包郵便物

普 通 書 留	計 受	普 通 書 留	計 送
10,116	19,146	2,465	33,031
9,080			43,497

昭和十一年五月末現在

### 郵便貯金

口 預	入 額	口 拂	戻 額
數 金	數 金	數 金	數 金
3,119	46,373	10,171	343,733

昭和十一年五月末現在

### 電 信

發 信	着 信	計 國	發 信	着 信	計 國
內	外	內	外	內	外
49,154	46,600	95,754	93	4	97

昭和十一年五月末現在

### 電 話

年度末現在 加入者數	加入者相互間 自由通話度數	有 料 通 話 度 數	非 加 入 者 通 話 度 數
78	4,147,76	143,438	4,469

昭和十一年五月末現在

(初等教育費の累年増加の爲)昭和八年州令を以つて公立幼稚園を廢止、當市でも從て公立幼稚園二ヶ所を廢止した。之に代つて保育事業に當つたのは愛國婦人會で、現在唯一の私立嘉義幼稚園は園長に同會嘉義支部長を充て保母一名、保母心得一名が園兒四十七名の保育に當つてゐる。

#### △中、女學校

嘉義中學校は大正十三年の創立にかゝり、本年滿十一周年に相當する。全校生徒擧げて堅實なる校風の下に學業を勵んでゐる。

嘉義農林學校、其の名は中等野球界の覇者として餘りにも有名な事實である。併し一度此の「野球」の嘉農を訪れるものの等しく感歎する所は全校生徒の學業に對する勤勉努力の餘りにも激しい事である。全校の特色とする所は云はずもがな、農產業其他に對する實科教育である。近く下路頭の新校舍完成を待つて移轉の筈である。校風又堅實。

嘉義高等女學校は大正十一年四月の創立にかゝる。一度校庭に入れば四季を分たす百花妍を競ひ、勤勞精神の強化と情操陶冶の訓練の行届いてゐる事に一驚を喫するであらう。稍々ともすれば學事のみならず、德育其他を等閑に附しがちな現代教育の欠點を補つて餘りある。

#### △實業教育

大正十年四月市立商工補習學校として創設し、昭和七年四月嘉義商工專修學校と改稱、今年現在の新校舍に移轉した。商業科三學級、工業科二學級、生徒總數一九六名、修業年限三ヶ年で實際的に必須なる學業を授け、訓育養成に意を注ぎ、木材都市としての嘉義の名に相應しい工藝品等の研究考案により、充分

なるの期待を掛けられてゐる現状にある。

市立嘉義女子技藝學校は昭和九年四月の設立に係る。裁縫、手藝其他家事を主としたる知識技能を授けると共に國民生活に須要なる婦徳を涵養するを目的とし、修業年限三年、現在生徒數九一名を收容してゐる

#### △公民教育

本市に於ては學校教育を振興する外、都市公民教育の緊要なるを痛感し隨時講演會、公民講座等を開催する外大正十三年六月創設に係る市立圖書館あり、藏書數約七千冊の外、新聞雜誌、婦人席特設、學生參考書の充實、巡回文庫等に努力、昭和十年閱覽者數は七八、六四〇人、一日平均二七三人に及んでゐる。

大正十二年四月創設の博物館は郷土館として特色あらしめんと史料蒐集、土俗調査、標本研究等に努め全般に開放して参考に資してゐる。之等は仮建築で大嘉義市としては一日も早急に大建築を實現せんとする機運にある。其他部落振興會を昭和九年五月創設、部落方面國語講習所の増加を計り、國語普及と國民精神の涵養並びに農村產業の振興等に努力を計つてゐる。尙市内には昭和七年二月青年訓練所の創設あり會員三百餘名を擁し、教練、職業、學科指導を夜間、週二回、月一回晝間に行つてゐる。他に嘉義立正、春日、玉川、嘉義女子の四青年團二百餘名あり嘉義聯合青年團が之を統制してゐる。別に南門、春日、玉川、白川の四少年團百六十餘名あり。他に臺灣體育協會嘉義支部あり、體育施設としては公園内に野球場を設置、又旭小學校内の五十米水泳プールも昨年完成し、別に市營テニスコート四、市民行樂地、ゴルフ場の工事も八九分通完成一路向上躍進の過程にある。

## 第七章 産 業

### 産業概観

物産観光紹介所



嘉義市は嘉南平野北部地方の産業的中心地であり、且又交通、運輸、通信諸機關の要衝に當り、更に嘉義飛行聯隊完成の曉は、市勢の發展充實は期して將來に俟つものがある。文化施設として最も須要なる交通機關は既に掲げた通りで餘す處がない。

天然の資源も亦豊かに阿里山檜材の大宗たる營林所工場を始めとして專賣局嘉義支局、鳳梨罐詰工場、煉瓦製造工場、電燈會社、精米工場等、煤煙天に冲する隆昌さである。又糖業聯合會を置かれた當市を中心に近隣に大小十數ヶ所の各社製糖工場あり、物資需給の集散地として嘉義市の使命も亦主且つ大である事を痛感する。産業に配する金融機關か又臺銀支店、商工銀行嘉義支店の兩銀行を始として羅山信用、嘉義信用、嘉義小商工信用等の組合、無盡會社あり産業金融の調整に遺憾はない

### 工業

#### 一、概 説

當市の工業界を見るに其の主たるものは官營に製材、酒造の兩者あり。民營に製材、製氷、窯業、鐵工業、罐詰業等がある。何れも經營の規程大きく内容も夫々特異性に應じ充實してゐる。殊に最近事業界の好轉に刺戟せられて其の基礎も漸次堅實味を帯ぶるに至つてゐる。併し乍ら一般的要求と嘉義市の現状は家庭工業、手工業等を重視すべき特殊の立場を脱却し得ない。又重工業方面の發達せざるを遺憾とするものであるけれども、東部山地方面より生産される木材、竹材、籐材等を原料とする各種工業の將來は、當市特有の重要な生産部門として更に大躍進を期待し得る事を疑はない。

#### 二、工 産 額

當市工産額は昭和四年に於て六百萬圓を突破し、昭和五年に於ては約五百萬圓を擧げ得たのであるが、爾來財界の暗轉と共に、一途不況に陥り世界經濟の一環としての恐慌の渦中に投ぜられ、數年間の不況は打開すべくもあらず、昭和八年には遂に二百萬圓台に墜落せる悲境にあつたが、漸く財界の好轉と共に昭和九年に於ては俄然四百萬圓台の成績を示して活氣を呈するに至り、本年にあつては五百萬圓を突破する事は豫想に難くないのである。

#### (一) 嘉義市工産額消長(最近六ヶ年)



年次	價格	年次	價格
昭和四年	六,三五七・〇三二	昭和七年	二,九七五・四二一
全五年	四,九二九・六四三	全八年	二,八二二・七三〇
全六年	三,三三九・八五九	全九年	四,二九三・〇四六

(三) 昭和九年種別工産額

種別	數量	金額
製材	110,133石	1,311,353
鐵工材		1,576,600
木材		221,970
粗摺品		639,723
精米		849,756
罐詰		204,611
其他		998,834
計		4,293,046

商業

嘉義市商業の現状は、打續く經濟界の不況に多大の悪影響を與へられ、商業的活氣を失ひ暗影すら感ぜしめたのであるが、近年財界の好轉と共に漸次活況を呈するに至つた事は、前述の工業概況並に工産額の消長によつて見るも適確に知る事が出来るであらう。當市は北臺南州の産業、交通の要地に當り、加之近郊に多數の製糖工場を擁し、隣接六郡の經濟、文化の中心地として斷然重要な位置を占め、農村の好況、糖業界の好況は必然的に旺盛なる購買力を示すに至つた。然し乍ら近來近郊部落、街地に於ける商取引も一段の自覺を進め來り、産業組合の發達と相俟つて之れが合理化に向はんとする風顯著なるものがある。斯くては當市商業界に一抹の不安をしとせず之れが對策について調査研究をなしつつある。商業地區としては内地人側及本島人一流商人に依つて形成される營町、北門町一帯と、本島人商人のみに依つて形成される西門町、元町一帯とがある。商業團體としては内地人側の嘉義商工會と本島人側の嘉義商業協會の二團體がある。會員數は約四百餘名を算し、當市商業の連絡協調整策に多大の貢獻をなしてゐる。物品販賣業者二、二一三人、從業者五、三八三人、其他を合して合計八、六八二人を算し全市人口の約一割二分に當る。

嘉義市商業從業員數(昭和九年度)

種別	經營者		從業員		合計
	内地人	本島人	内地人	本島人	
計					
合計					

物品販賣	其他	計
二、八六三	二、〇三三	四、八九六
一、八六三	三、九一九	五、八六二
五	七	一二
二、二二三	六〇八	二、八三一
一、〇〇七	二二七	一、二三四
四、二五七	二四四	四、五〇一
二九	一七	四六
五、三八三	四七八	六、〇六一
七、五九六	一、〇六六	八、六六二

**市場**

市の經營するものに魚市場、果菜市場、家畜市場の三卸市場と、東西市場との五つがある。夫々其の機能發揮し、市内外の需要に應じ又一面市勢の進展に寄與する處が尠くない。

**(イ) 魚市場**

本市場は臺南州水産會の所屬なり。往年より代行契約に基き之を經營し今日に及んでゐる。既往に於ては近郊各地は勿論、遠く州外に迄鮮魚類の供給をなし、頗る優良の成績を擧げて來たかのである。昭和六年會文郡番子田に魚市場の開設を見、引續き各地に設置されるに及んで、著しく販賣區域を縮少され取扱額又減少、殆んど半減さるゝの狀態に立ち至り其の大部分は市内消費なりと云ふ事が出来る。

**(ロ) 果菜市場**

市勢の膨張は蔬菜果實類の必需品の要求多く、之等の取扱は幅狭を極めつゝあり。生産品に對する市民の保健上、之等の消毒の勵行、賣買の統制等、都市としての大衆衛生に遺憾なきを期し年々優良なる業績を擧げつゝある。

**(ハ) 家畜市場**

本市場は大正九年牛墟の開設に源を發し、爾來幾多の變遷を経て、家畜問屋に依り、成豚の賣買を行ひ來つたが、昭和五年市制實施と共に市に移管の交渉成立を見、業務整理の關係上、猶豫期間を昭和八年三月三十一日迄と定め、全年四月一日より名實共に市營となつて今日に及んでゐる。今事業の概況を見るに市移管直後幾多の困難を排し、從來の相對賣買を廢止して雜賣を斷行し、各市郡畜産組合の内豚販賣幹施事業開始を楔期として出荷統制の結果頗る好成績を示してゐる。

**(ニ) 消費市場**

本島に於ける消費市場は専ら衛生上の見地より施設され、従つて當市東西兩市場も双方共衛生費に依つて經營されて來たものであるが、大正九年度制度改正と共に街に移管され、主として社會事業の見地より經營することゝをり、次いで昭和五年一月、市制實施に伴ひ現代に至る。市は經濟的、社會的、併せて衛生的施設を主眼とし施設せられ前年之が建物を改築し其の設備の充實と偉容とを誇つてゐる。

**金融**

當市に於ける金融機關として其の主要なる役割をなすつゝあるものに臺灣銀行嘉義支店、商工銀行嘉義支店の二つがある。此の他産業組合として嘉義信用組合、羅山信用組合、嘉義小商工信用組合、嘉義購買利用組合、嘉專購買組合、營嘉購買組合、嘉義建築信用購買利用組合、嘉義銀座建築信用購買利用組合、

臺南州米穀信用購買販賣利用組合、嘉和建築信用利用組合、嘉義倉庫信用購買利用組合等の十一組合を算し、別に臺灣南部無盡株式會社嘉義支店、嘉義市公設賣場等がある。別に市内には民間賣場が數へられ金融の點に於ては庶民の利用に欠くる所がない。

**農業**

市勢の發展益々旺盛なる當市の自然の趨勢として、市街地の伸張と工場地、住宅地等に年々侵食され行く附近耕地の減少は免かれず。市としての所要作物其の他の農産物も自給の域より益々遠ざかる事は止むを得ない事で、必然的に近郊郡部より供給を受ける状態である。管内に於ける主要農産物は米、蔬菜、甘蔗、甘蔗等を主とする。蔬菜の消費量は年々増加の傾向であるが、遠くは内地又は管外生産地よりの供給に依り補つてゐる現状に着目して、一部農家では蔬菜栽培を生業とし栽培の手腕經驗に長じてゐる者も少くない。耕地九百五十甲は大部分看天田なので、水利問題の解決は之が成否の岐るゝ處として此の對策こそ急務とされてゐる。

昭和九年度

農業戸口	戸數				人口			
	嘉義市 總戸數	農業 自作	兼業 自作兼小作	小作	嘉義市 總戸數	農業 自作	兼業 自作兼小作	小作
一五、〇〇元	五五	七三	九五	二、三〇	七三、八〇	二、四九〇	三、三五二	四、〇五二
								九、八九四

尙當市農産高を具体的に各年別にしたものを左にかゝけて見る

年別	價格	年別	價格
昭和四年	五〇・五〇	昭和七年	七四・六四六
昭和五年	六〇・二二	昭和八年	五七・八三
昭和六年	五〇・九三	昭和九年	八六・六七

**林業**

嘉義市の東部、即ち山子頂、紅毛埤、盧厝等の各部落には約七百四十甲の雜木材を有し、近年園藝作物、コーヒー等の栽培が盛んとなり、漸次有効に開發されんとしてゐる。昭和九年中に於ける林業の概況を示せば左の通りである。湖葉樹林三八二甲、竹林八〇甲、原野二七五甲、計七、七三七甲となつてゐる。林産額は昭和九年度、一七、二二〇圓で主なるものは、用材、薪炭材、竹材である。

**畜産業**

農業經營と不可分の關係にある畜産について見るに、家畜の種類は、牛、豚、鶏、鶩等が主なるものである。

水牛は大正十年より昭和五年迄十ヶ年間に亘り、個体の向上を計り、其の目的達成に努め、黄牛に於ても、現にシンド、カニグレイジ種を以て個体の改良を計りつゝある。豚に於ては八割迄の在來種パークシ

ヤ種牡豚の貸付、並に購入方を奨励し、此の種の改良生産に専念し、最近に於ては在來豚は殆ど見る事は出来ない優良状態にある。

鶏、鶯にあつても優良種を以て個体改良に資し、肉卵業用種とし、相當の成績を納めてゐる。有畜農業の叫ばれてゐる折柄「家畜なければ農業なし」の諺言をモットーとして、極力目的に向つて邁進しつゝある。茲に之等業者の自覺を促し麵羊事業の旺盛を望む事切なるものがある。

**家畜種類、頭數**

水牛	牛	一、五八四頭	本島在來豚	五六二頭
黃牛	牛	二二二頭	洋豚	七九頭
印度牛	牛	六頭	雜種豚	五、九一八頭
雜種牛	牛	六頭	緬羊	六六頭
鹿	一〇頭	山羊	二四四頭	
馬	三五頭			

計八、八〇四頭、價格は三九七、五九二圓、家禽としては、鶏、鶯、鶯鳥、七面鳥等三二、九一七羽、計二一、三一九圓を示してゐる。  
嘉義市屠畜數は、豚二四、〇四二頭を筆頭として、水牛、黃牛、山羊の順であつて、計二五、一五八頭を屠り、之が價格は五九二、五〇九圓餘である。

**水産業**

當市に於ける養殖は、淡水養魚であつて、全体を通じて小規模である。飼養池沼面積二十五甲、二萬斤を産し、其の主なるものは、鯉、鯪魚、鱒、草魚等であるが、大半は自家消費を目的として飼養せられてゐるに過ぎない。

昭和十年に於ける水産業者は六五名餘で年度養殖收穫高一六、六五八斤餘、價格二、八八五圓餘にすぎず、蒲鉾、竹輪其他の水産加工品は七五、二三〇斤、二〇、五八二圓餘を出すに過ぎない。

**會社**

北部臺南州に於ける交通、經濟、文化の中心地たる當市は、亦附近山の手方面産物の集散地として夙に知られ、本市に於ける會社企業の趨勢にも如實に反映してゐる。

即ち昭和十年に於ける嘉義市所在會社總數の五割は運輸業、商工業の占める所であつて、商業は三割を占めてゐるにすぎぬ。當市に於ける會社總數は四十社に充たないのであるが、之れは經濟恐慌來による激減の結果であつて其後の景氣好轉と共に漸く舊態に復しつゝある現状である。別表所載のものは、昭和十年末、活動中の當市に本店を有するものゝみである。

**會社數**

概要

嘉義市は其昔明治四十年前後迄の街時代に於ては「ベスト」頻發し、大正八、九年頃より二十年前後迄



嘉義市ヨリ見タル新高速峯

第八章 保健衛生

計	會社別			總數	工業	農、林、 畜産業	商業	運輸業	其他
	大會社	中會社	小會社						
一九	一	二	六	一	二	一	三	四	一
四	一	二	一	一	一	一	七	四	一
三	一	一	二	一	一	一	七	四	一
七	一	四	三	一	一	一	七	四	一
四	一	四	一	一	一	一	七	四	一
一	一	一	一	一	一	一	七	四	一

資本階級別會社數

百萬圓以上大會社 五萬圓以上  
五十萬圓以下 中會社 五萬圓以下小會社

資本金額

産業別	株式		本資		金額	
	合	計	合	計	合	計
工業	1,800,000	850,000	500,000	10,000	1,885,000	91,000
農林畜産業	750,000	6,500	500,000	250,000	605,000	605,000
商業	80,000	—	—	—	80,000	—
運輸業	70,000	—	—	—	70,000	—
其他	150,000	—	—	—	150,000	—
計	2,675,000	790,500	790,500	350,000	3,465,500	3,465,500

産業別	株式		本資		金額	
	合	計	合	計	合	計
工業	1,800,000	850,000	500,000	10,000	1,885,000	91,000
農林畜産業	750,000	6,500	500,000	250,000	605,000	605,000
商業	80,000	—	—	—	80,000	—
運輸業	70,000	—	—	—	70,000	—
其他	150,000	—	—	—	150,000	—
計	2,675,000	790,500	790,500	350,000	3,465,500	3,465,500

は「コレラ」流行性脳脊髄膜炎等、逐年流行し頗る不衛生地であつたが昭和聖代に入り「チブス」「ヂフテリア」以外の法定傳染病は殆んど其跡を絶つに至つた。而して昭和五年一月市制が施行せらるゝや市街地は急激なる發達を爲し衛生思想も漸次向上し市制實施當時市管内人口五萬四千人であつたが昨年末に於ては七萬三千余(内譯内地人九、四〇〇人、本島人六一、八〇〇人、朝鮮人六七人、外國人一、八〇〇人)を算するに至り殊に汚物掃除區域たる市街地七ヶ町百二十七萬坪に於ては約二萬人の増加を來し、目下人口五三、六〇〇余人を算す。今昨年末に於ける市内管の衛生狀況を検するに出生三、一一七名、死亡二、二六七名、死産一一二名にして死因の主なるものを舉れば肺炎二五一名を最多とし、消化器病一八〇名、結核九四名等之に次ぎ年齢上よりすれば五歳未満の乳幼児の死亡六四一名は死亡者の過半を占め五十一歳以上二七歳以下に次ぎ其他は一〇〇名乃至五〇名内外である。

核及法定傳染病は別紙の通り一昨年來其發生極めて少く流腦患者の如きも他州より一時來泊した者であつた動島市より發生したのではない。従て保菌調査の結果保菌者なく概して良好の成績を收めつゝある。結核其の豫防に就ては豫防日に於て宣傳ビラ、パンフレット、ポスター等の配付及無料健康診断所開設、活り眞映畫等に依り市民に傳染病なることを周知せしめ之が豫防に努めつゝある。而して結核の死亡者は年一〇〇名内外にして患者数は其數十倍ならんと思料せらるゝも判明せず、癩患者は判明せるもの十一名あ年々一、二名づゝ樂生院へ入院せしめてゐる。

マラリア防遏に就ては昭和八年度迄採血檢鏡を爲せるも原虫保有者僅少の故を以て九年度以降之を廢したるも郡部の來往者及氣温に依り近來マラリア患者増加の傾向あり。保健衛生上八年度より三歳以上五十五

歳迄の市民に對し寄生虫驅除の爲め海人草服藥を奨勵せるに一般に其有効なるを認め進んで服藥を申出づる傾向あるに至つた。「トラホーム」は小公學校兒童に付檢するに、罹病者小學校男七八七名中六九名にして八分七厘、女七〇七名中六七名にして九分四厘、公學校男三、九四〇名中一、七五〇名にして四割四分女、二一六四名中八九五名にして四割一分を占め益々増加の傾向あるを以て學校看護婦をして極力治療に努めつゝある。

今左に衛生作業及び主なる衛生施設に付畧述すれば左の如きものである。

### 上水道

創設、 明治四十五年三月總督府土木局に於て起工せられたもので、大正三年三月竣功し、保健、衛生、防火施設として唯一のものである。爾來幾變遷、廳管理より州に移管、更に州より街市と其の時によりて管理の相違ありとするも、嘉義市の持つ力強き施設にして其の恩恵に如何程預りたるかは言を俟たない。當時の人口は約二萬人程度なりしが、年と共に増加擴張し、其の人口は昭和三、四年頃より既に其の給水豫定人口三萬人を突破せんとするの狀勢を見るに至り、嘉義市將來に備へんとする大計劃の下に、給水豫定人口五萬人を目標とする第一期擴張工事の必要を認め、銳意之が實現に努め、昭和六年三月擴張を認可せられ直に起工、全八年三月現在の上水道施設の完成を遂げたものである。

水源 地



工 費

創設工事費 金六拾萬圓餘  
 第一期擴張工事費 金四拾貳萬圓餘  
 總 工 費 金壹百貳萬圓餘

水 源

- 第一、嘉義郡竹崎庄樟樹坪  
 朴子溪上流(標高七二五尺、二二〇米)  
 距嘉義三里二十三町餘一四、三七六米
- 第二、嘉義郡番路庄番路  
 朴子溪支流(標高五九一尺、一七九米)  
 同 三里三町餘一二、一七〇米餘
- 第三、嘉義郡番路庄觸口  
 八掌溪上流(標高六八五尺、二〇七米)  
 同 三里二五町餘一四、五一一米餘

送 水

「マンネスマン」銅鐵管並鑄鐵管口徑十四吋及至十吋を以て嘉義市山子頂淨水場へ自然流下送水す。

淨 水 場

構内約貳拾萬平方米の地域内に沈澱池一個此の容積三、八九五立方尺、濾過池、五房(一房の長さ三〇米、幅二二米餘、深さ三米弱)、(濾過速度一晝夜三米)一房は二、〇〇〇立方尺を濾過し得。淨水池二房、方形にして長二五米幅二二米、有効水深三米、此の容積二、六〇〇立方尺余、常時一人一日二五リットルを使用するものとせば約拾時間分を貯溜する事が出来る。

給水能力と現在使用量

給水量	一日平均	昭和十年末
一日最少	七、二八二立方尺	
一日最大	五、九六五立方尺	
一日平均	八、九七〇立方尺	
一日最大	一五三リットル	
給水最大能力	二〇四リットル	
	同	
	一〇、四三〇立方尺	

給水戸数及人口

戸 数 七、二二四戸 (昭和十年末)  
 (七、二〇五戸)

人口 四二、六九〇人 (四三、九五〇人)

鐵管總延長

送水鐵管……………三四、三二六米  
配水鐵管……………三三、三三五米

由來島内河川は急流にして降雨期は氾濫し渴水期は枯渴するの影響を受け、施設物の能力を發揮せんとせば源水なく取入困難となり毎年三、四月の候に入り稍ともすれば水量不足の現象を呈す。之に鑑み目下第二、第三と補給水獲得の計劃を進めつゝあり。畢竟嘉義市は淨水に恵まれざる所にして水道の使命又大なるものがある。就中第一期擴張前、既に水量枯渴を緩和せんとし、第一取入口上流樟樹坪全柳寮の集水區域内に約百四十甲歩に亘る植林をなし、其の生育と共に水源涵養林として有望視せられてゐる。

下水溝

市街衛生上、下水溝の完全と否とは其の都市の發展度合を察知する事が出来るとも思はれる。明朗性に富む所の市街美は斯くした些少の事でも感じられる事は人生として常である。特に島内では下水衛生に留意すべき點が多々ある。市は年々道路開墾と共に下水溝の完成を期してゐる。勿論既成市街のブロックに下水溝の施設なきものは皆無である。其の總延長は七九、九五〇米で之が掃除等に多大の勞力を要してゐる。

撒水狀況、井戸の狀況

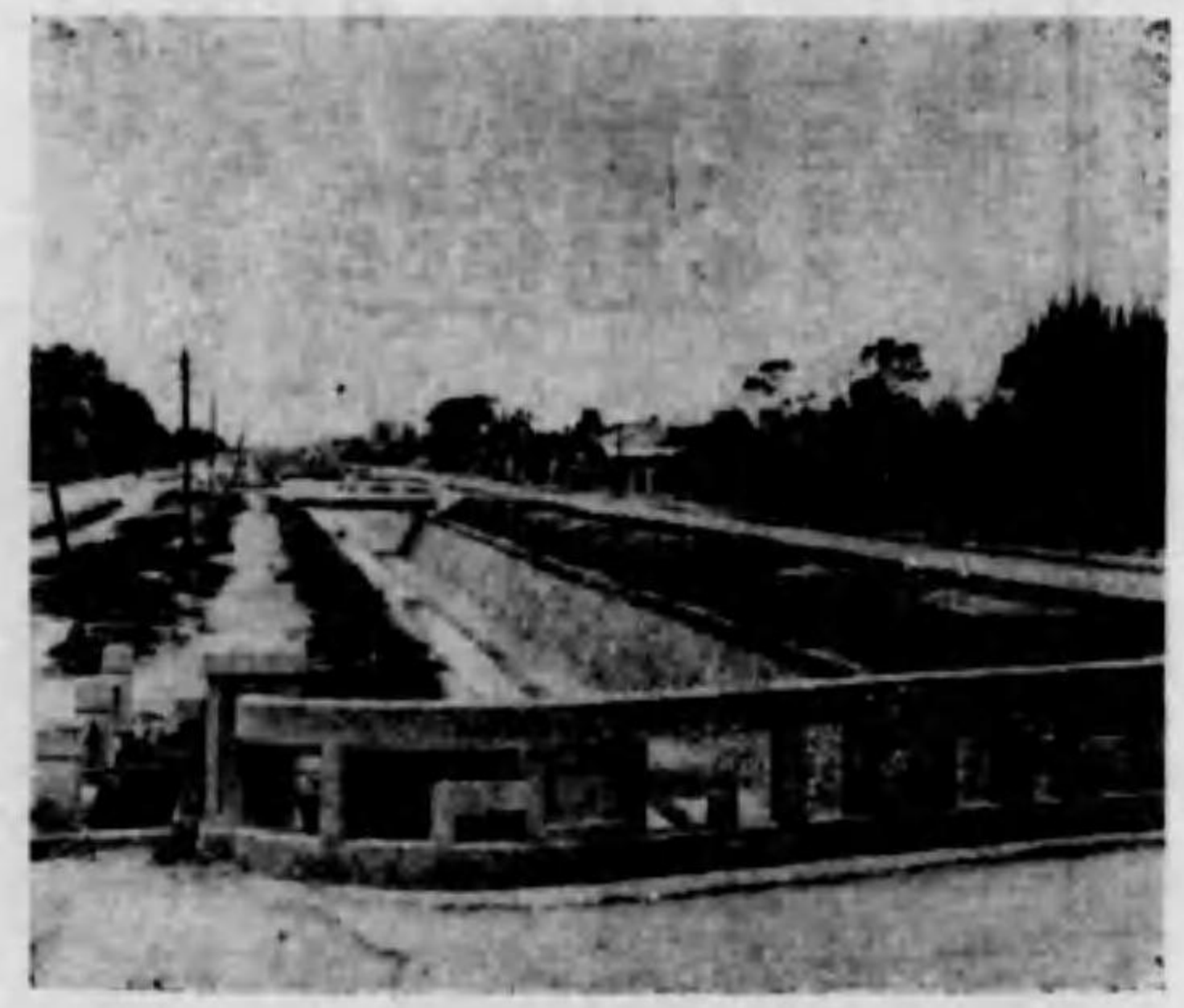
市内の撒水は午前七時より午後五時まで十五石入二台、八石入一台、計三台の自動車を用いて掃除區域内の道路を三回乃至十回撒水しつゝ其撒水總延長一三二「キロメートル」面積三、七五九「アール」に達してゐる。

井戸は掃除區域内に於て飲料に適するもの一二九個所、雑用水のもの二二八個所あり

醫療機關

市立傳染病院

大正三年七月創立開業工費二一、七〇六圓、敷地坪數三、三四〇坪  
建坪數二三〇坪、職員醫務囑託醫一、調劑囑託一、事務員一、看護婦一、小使一名である。



大下水

病室別	室數	收容人員	使用料	藥價
一 等 室	四	一六	七	三〇
二 等 室	四	一六	七	三〇
隔離室	一	四	一	三〇

保生醫院棟狀況



備考 市外の者は使用料倍額とす

官立嘉義醫院

- 一、嘉義醫院創設年月……………明治二十八年五月
- 二、同 敷地坪數……………七、五一坪六
- 三、同 建坪數……………一、一三三坪三四八
- 四、同 棟 數……………六 棟
- 五、同 總建築費……………一七四、三五七圓六八
- 六、職員及醫師……………一八名 事務員六名 看護婦三三名
- 七、普通 病 室…………… $\left. \begin{matrix} 一 \\ 三 \\ 二 \end{matrix} \right\}$ 等 等 等 五室 收容人員 二五名  
 $\left. \begin{matrix} 一 \\ 一 \\ 二 \end{matrix} \right\}$ 等 等 等 五室 收容人員 八九名
- 八、傳 染 病 室…………… $\left. \begin{matrix} 一 \\ 三 \\ 二 \end{matrix} \right\}$ 等 等 等 二室 收容人員 二名  
 $\left. \begin{matrix} 一 \\ 二 \\ 一 \end{matrix} \right\}$ 等 等 等 二室 同 八名
- 合計 一三五名

其他の醫療機關

(昭和十年末現在)

官立	公立	私立	官公署	開業	官公署	開業	官公署	開業	官公署	開業	官公署	開業	官公署	開業	官公署	開業	官公署	開業	官公署	開業			
醫	院	醫	師	藥	劑	師	産	婆	獸	醫	齒	科	醫	生	藥	種	商	按	摩	鍼	灸	按	骨

一	三	一八	一五	五二	二	六	一	五四	五	三	三	四	五	三〇	三九	四
---	---	----	----	----	---	---	---	----	---	---	---	---	---	----	----	---

傳 染 病

一、傳染病防遏

法定傳染病發生するや、直に患者を市立保生醫院又は府立嘉義醫院に收容し患家及び其の附近に對し薬液消毒を行ひ「チフス」流行性腦脊髄膜炎患者發生の際には、五十戸内外の居住者に對し、保菌調査を勵行し尙「チフス」患家附近五十戸内外は三日毎に便所の汲取塵芥運搬薬液消毒を勵行し、若し保菌者あたる際は注意を發し「書内」注意事項を厳行せしむると共に、専用の便器に排便せしめ之を防疫人夫をして毎朝消毒の上殺菌「タンク」内に投入せしめ豫防注射(無料)又は「腸チフス」豫防経口「ワクチン」(有料四歳以下七錢、五歳以上十四錢)の服用を奨励し且つ年數回傳染病豫防の宣傳「ビラ」を市内各戸に配付し又は衛生、講演、活動寫眞等を開催し公衆衛生思想の向上に努めつゝあり。

法定傳染病發生狀況

街末期より市制施行後の傳染病發生狀況

年 別	病 類 別	チフス		ゲフテリア		赤 痢		流 膿		痘 瘡		傷 寒		紅 熱		計	
		發生	死亡	發生	死亡	發生	死亡	發生	死亡	發生	死亡	發生	死亡				
昭和三年		六〇	一五	四	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	六三	一七

種別	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年
同	五	二	二	一	一	一	一	一
同	三	二	一	一	一	一	一	一
同	七	四	三	三	三	三	三	三
同	三	二	一	一	一	一	一	一
同	六	四	三	三	三	三	三	三
同	八	六	五	五	五	五	五	五
同	九	八	七	七	七	七	七	七
同	十	九	八	八	八	八	八	八
計	三六	二八	二〇	一四	一四	一四	一四	一四

チフス患者發生年別表

種別	五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年
計	六三	四七	四二	六四	二八	二一	二一

豫防衛生

定期種痘

市内定期種痘豫定人員 六、二一六名に對し昭和十一年二月二十八、九日及び三月一日の三日間に互り公會堂及び玉川町、宮前町、北社尾の三保甲事務所に於て定期種痘を施行したり。其の成績左表の通り。

昭和十一年定期種痘成績表

種別	要種痘人員		第一期第一回		第一期第二回		第二期第一回		第二期第二回		事故不參者
	第一期	第二期	感	不	感	不	感	不	感	不	
内地人	三三三	三三三	二二七	一〇八	七	八	六二	一五	三	三	一〇三
本島人	三、〇九二	二、三三六	二、四四三	二〇七	九	七	六六	九〇三	三	三	五七六
朝鮮人	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
外國人	八二	九	六	五	二	三	三	三	一	一	一
計	三、四八五	二、七三二	二、七四六	二二〇	二	三	七九	一、〇七九	六	六	六九四

マラリヤ

マラリヤ防遏に就ては、害虫保菌者僅少の故を以て昭和九年度以降之を廢止せるも、郡部の來往者及氣温に依り近來増加の傾向あり

墓地

嘉義市管内の墓地は十五字四十八筆、四三甲七〇七六にて昭和九年度より墓地使用條例を改正し山子頂墓地の一部甲地は一區（一平方米）より六區迄は一區に付二圓なるも他の墓地即ち乙地は無料とし七區以上甲地は一區に付十圓乙地は五圓で甲乙地共十二區を超えることを得ず市管外の者は倍額で使用せしむることとし、墓地使用に制度限を加へ居れり因に昭和三年より同十年迄の使用件数は左の通りである

年別	昭和三年	同四年	同五年	同六年	同七年	同八年	同九年	同十年
件数	同	同	同	同	同	同	同	同

埋	葬	1,118	1,118	1,111	1,116	1,117	1,118	1,119	1,120	1,121
---	---	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

**火葬場**

火葬場は市管内に山子頂火葬場一ヶ所あり火葬爐三個あり。五才迄は一屍に付一圓五十錢、六歳以上は三圓の使用料を徴し在臺南市弘仁株式會社の請負とし當市に出張所を置けり。因に昭和三年より同十年迄の使用料は左の通りである。



納骨堂

種族別	年別									
	昭和三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年	計	平均
内地人	一四	一五三	一五二	一四九	一六八	一五三	一五二	一六〇	一,一〇〇	一〇〇
本島人	六	五	五	三	三	三	三	三	三	三

**衛生作業従業員**

掃除監督長兼一、全監督一、全巡視五、墓地巡視一、人夫伍長五、塵芥係人夫二〇、屎尿係人夫三五、下水溝人夫一三、雜芥蒐集、除草消毒係人夫二、撒水自動車運轉手三、全助手三、汚物自動車運轉手三、墓地除草人夫一となつてゐる。

**第九章 社會事業**

嘉義市				種類	施設
計	個人	團體	市		
一			一	員委面方	助
一		一		業事成	助
四		三	一	助教民窮	施教
一			一	護教人病旅行	設護
四	一	三		療診料無輕	保醫
一			一	場市共公	經濟
一			一	護保泊宿	保護
一			一	舖賃設公	保護
一			一	產	授
一			一	融金民庶	庇
三	一	一	一	護保婦產妊	兒
一	一			談相兒育	童
一			一	圖遊童兒	幼
一		一		育保兒幼	幼
三		一	二	設施保購	施
一		一		護保者放釋	化
一			一	談相事人	指
					導
計					
二七	三	一四	一〇		

△嘉義市方面委員 (州營)

州 營 聯合事務所 嘉義市役所内 大正十四年六月十七日

方面委員の數内地人十五名但五名は無担当本島人二  
十一名但一名は無担当にして甲區十區乙區二十區な  
り、市内住民の生活状態を改善し保護救療其他一般  
生活の福祉増進を圖るを目的とす

△ 方面委員助成會

組 員 嘉義市東門町 大正十四年八月一日

六丁目三番地

方面委員の活動を援助し且社會事業相互の連絡發達  
て計るを目的とす現在會員三八四名にして理事長一  
名常務理事二名理事六名評議員二十名を以て組織す  
資産 一四、三〇七圓なり

△ 嘉義慈惠院

財團法人 嘉義市新富町 大正十二年十二月一日

七丁目一四番地

本島最古の社會事業施設たる育嬰堂を繼承し明治三  
十九年嘉義慈惠院と改稱し爾來數度の救養區域變更  
あり現在は嘉義市嘉義、新營、斗六、虎尾、北港、東  
東石の一市六郡に居住せる不具廢疾、傷病老衰、幼  
弱者にして扶養義務者なく自活し能はざる者並盲啞  
者を救護す 資産 九二、四四五圓なり

△ 乞食收容所愛生院

會 員 嘉義 隣保館 第二分館 昭和六年六月三日

七丁目一四番地

各所を徘徊し金品を乞ふ浮浪者を院内收容し労働に  
堪え得るものは授産場へ就業せしめ救護をなす  
會員 一四五名なり

△ 嘉義市隣保館之事業

嘉義市 嘉義市東門町 昭和九年五月十一日

方面委員 六丁目三番地

嘉義市方面委員の機能發揮活動の助成機關として社會  
協調の趣旨に基き社會事業の綜合的經營を行ひて市民  
共同の福利増進を達し兼て隣保相扶の精神に則り社會の  
改善向上を圖るを以て嘉義市方面委員助成會を經  
營主体として設立せるものなり

イ 窮民救護部

嘉義 隣保館内 大正十四年八月一日

一般公私救助施設規程に該當せざる窮民にして方面委員に於て救  
助の必要を認むる被救助者に對する救助をなす

ロ 院内救療所

嘉義 隣保館 第四分館 昭和十年四月一日

嘉義市新富町 六丁目一四番地

重症疾者にして入院治療を要するも貧困のため治療をなし得ざる  
者を方面委員の紹介により收容し治療の便を得せしむ

ハ 輕費診療所

嘉義 隣保館内 昭和十年二月十四日

罹病するも醫治の實力乏しき中産階級以下の貧困者に輕費を以て  
診療して早期に醫治の便宜を與ふると共に文化的醫療を普及する  
を目的とす

二 嘉義婦人會簡易宿泊所

嘉義 第三分館 大正十二年四月十六日  
 嘉義市東門町  
 六丁目三四番地  
 本會は嘉義婦人會か皇太子殿下本島行啓の盛事記念として創設し  
 經營し來りしが昭和九年十月一日以後嘉義保館に委託經營せし  
 むることとなり宿泊の實力なき行旅者に對し宿泊舍を興へて  
 簡易に宿泊せしむるを目的とし宿泊使用料一夜十錢を納入せしむ

水 授 産 場

嘉義 第一分館 昭和四年八月十日  
 嘉義市新富町  
 七丁目一四番地  
 職業なき貧困者に勞務の機會を興へて生計の實力を得しむ授産の  
 種類左の如し 一、竹箒 二、竹製熊手 三、棕梠箒 四、簾編工

へ 生 業 扶 助 部

嘉義 保館内 大正十四年八月一日  
 小額の生業資金により生活實力を得る見込ある者に對し方面委員  
 の紹介及保證により無利子貸付扶助をなす

ト 巡 廻 助 産 部

嘉義 保館内 昭和九年六月六日  
 專任助産婦をして市内を巡廻せしめ貧困妊婦の指導及助産處置を  
 なす

子 託 兒 所

嘉義 保館内 昭和九年六月六日  
 家庭生計上或は養育上不便を感じる幼児の寄託を受けて晝間託兒  
 保育をなす

託 兒 實 人 員	一 五 五
託 兒 延 人 員	一 五、五 八
託 兒 日 數	二 九 六

△ 人 事 相 談 所

性 別	事 由	人 事			相 談				
		身 上 關 係	金 錢 關 係	土 地 關 係	其 他	調 不 調	調 不 調		
計 女 男		三 三	六 二	二 二	六 九	一 五	一 四	一 〇	二 四

性 別	事 由	求 職 數		求 業 人 數		紹 介 數		就 職 數	
		女	男	女	男	女	男	女	男
		一 八 九	四 八 〇	一 八 四	三 八 二	一 四 五	三 九 二	九 六	二 六 四

計	五九	五五	五三	三六〇
---	----	----	----	-----

△臺灣佛教龍華會

財團法人	嘉義市山子頂 二八一番地	大正九年三月	本會は大正九年三月現理事方氏秀、前會長廖炭發起となり創設し釋放者保護並に貧困者不遇者の救済に従事し昭和四年七月法人組織に改む 資産 四九、〇九五圓なり
------	-----------------	--------	--

△嘉義市窮民救助

市營	嘉義市役所内	昭和七年四月一日	嘉義市に居住せる扶養者なき不具、廢疾、疾病、老幼の必要ありと認むるものを救護す
----	--------	----------	---

△行施病人救護、死亡人取扱

市報	嘉義市役所内	昭和五年一月二十日	行旅病人及行旅死亡人取扱法は明治三十二年勅令第三六五號を以て本島に施行せられ、市尹に於て救護し病人は嘉義隣保館に委託して救護し、費用は繰替拂を爲し本人若くは扶養義務者に辨償せしむ資力なき場合は州費負担す
----	--------	-----------	---

△嘉義慈惠院醫療所

財團法人	一市六郡下 本院診療所ハ 嘉義市元町六 丁目四〇番地	大正十二年二月	嘉義市及嘉義、新營、斗六、虎尾、北港、東石の一市六郡下の貧困にして醫療の實なき者に對し百一箇所の施療五箇所の巡迴診療地本院にては實費診療をも併せ爲す
------	-------------------------------------	---------	--

區別種	實費		人員	延	人員	延
	療	費				
郡部	施	巡	三、六八八	三、六七八	一六、七七一	九、六三三
嘉義市	施	實	二、〇五二	二、〇五二	一一、〇七二	三、三八七
計			五、七四〇	五、七四〇	二七、八四三	一三、〇二〇

△嘉義一三會同愛院

會員	嘉義市元町 四丁目九九番地	昭和七年四月一日	嘉義玉川公學校第一三回卒業生中有志にて組織し一三會と稱し貧困者に對し實費診療及施療を爲す醫療保護機關なり、會員の數十三名にして内醫師五名、普通人員八名なり
----	------------------	----------	---

▲振山眼科醫院

個人	嘉義市元町 六丁目四三番地	昭和九年四月一日	對傳來氏個人經營の眼科醫院にして大正十五年八月創設以來貧困者に對し施療を併せ行ひ來り八月六月に三十名收容の施療室三室を整備して醫療社會化に努力し九年四月一日其の創立報告を爲せり
----	------------------	----------	--

種別	實人	員	延	人	員	經	費
特別處置							
實施費		一四五				二、三五八	八二五三〇
計		四〇				二、一九〇	四三八〇〇
		三一五				四、五九六	一九二〇〇
							一、四五五三〇

▲嘉義公設質舖

市營	嘉義市北門町 四丁目一九〇番地	大正十三年九月十八日	庶民階級の金融に便にし貸出件最高三百圓月利子一分五厘入質期間六ヶ月にして現在資本金八萬二千圓なり流出品處分として毎月二十二日前後公會堂に陳列賣出を爲し尙九年一月以來質舖一室に當設賣店を設置せり
----	--------------------	------------	--

種別	件數	點數	金額	一人平均額	利益額
----	----	----	----	-------	-----

▲市公設助産婦

流入	受流	流質	實實	實實	實實
二、三七八	二、六〇三	九、六六九	二、五七七	二、〇九〇	六、七六三
二八、二六八	七、〇八一	一三、五六一	二七、〇八五	二七、〇八五	一〇、四九九
一五、〇二七	二七、七五〇	一〇、六六七	二〇、九三三	二〇、九三三	六、四九九
一三、三七	一〇、六七	三、三三三	一〇、九三	一〇、九三	三、六三九

市營	嘉義市役所内	大正十三年四月十六日	皇太子殿下本島行啓記念事業の一として創設し、現在市内開業産婆十三名に助産事務を囑託し、産婆招聘の資力なき者を助産救護し、産婦一人に付手當二圓と藥品代を給す
----	--------	------------	---

▲諸峯醫院助産所

個人	嘉義市榮町 二丁目四五番地	昭和七年七月一日	昭和四年八月以來一般貧困なる妊産婦に對し無料助産を施しつゝ、ありしか昭和七年七月一日より入院料及治療費一切を免除し初生兒に對しても同様施療を公表せり其の後貧困者激増に伴ひ取扱數益々増加せり
----	------------------	----------	--

▲育兒相談所

個人	市内各所	大正十三年十月	同生醫院中島巳之助氏夫妻創立五周年記念として創設せしに始まり其の後大部分の内地人本島人の開業醫何れも妊産婦乳幼兒保健上の無料保健に盡しつゝ、あり
----	------	---------	--

△ 兒童遊園地



嘉義市兒童遊園地は昭和九年六月三日現川添市尹によつて實現せられ嘉義市山子頂四三四ノ一外九番地の一体に創設せられ、一般兒童の保健、体育上に資する事となつた。

市營である。敷地四、九三三坪兒童用プール其の他各種の運動器具を設備し兒童の保健を圖る。尙動物、鳥類を多數飼育す。入園料大人五錢、子供三錢である。十年度に於ける入園者は約七百六十人を算し收入金額約二千五百圓であつた。

入園料	開園日數	入園者總數		
		計	本地人	島外人
二、四六五、一四〇	二八八	七五、八七七	四一、五三三	三四、三五五

△ 嘉義市公會堂



嘉義市公會堂は市營であつて嘉義市榮町二丁目三六番地にある。大正九年八月二十日創建されたものである。

嘉義市、嘉義、新營、斗六、虎尾北港、東石の一市六郡の寄附行爲に依る財團法人であつたが昭和八年一月二十七日當市に移管し祭祀、宗教、慈善、學術、技藝其の他公益上の集會等市民の使用に利便を計つてゐる。

種別	使用度數		使用料金	使用者數
	有料	無料		
學術	一九九	一〇六	五九〇〇	一、九〇四
技藝	一〇八	一三三	九二〇〇	四、三四四
宗教	四	三	一、六〇〇	三、七二五

△ 嘉義市民館



嘉義市民館は嘉義市北門町二丁目一二番地にある。昭和七年十月十八日市營として創設せられたもので本館西洋室は貴賓の宿泊又は休憩所に充て日本室は市民一般の集會等の使用せしめてゐる。

種別	使用度數		使用料金	使用者數
	有料	無料		
學術	一三三	一〇六	二、六五〇	三、〇〇六
技藝	八	一〇	一、八五〇	二、三三八

其ノ他	計	共
一四	一九七	三、四二
二二	三、七六	一、三三、五〇〇
二二	七〇、五二五	六四、四六〇



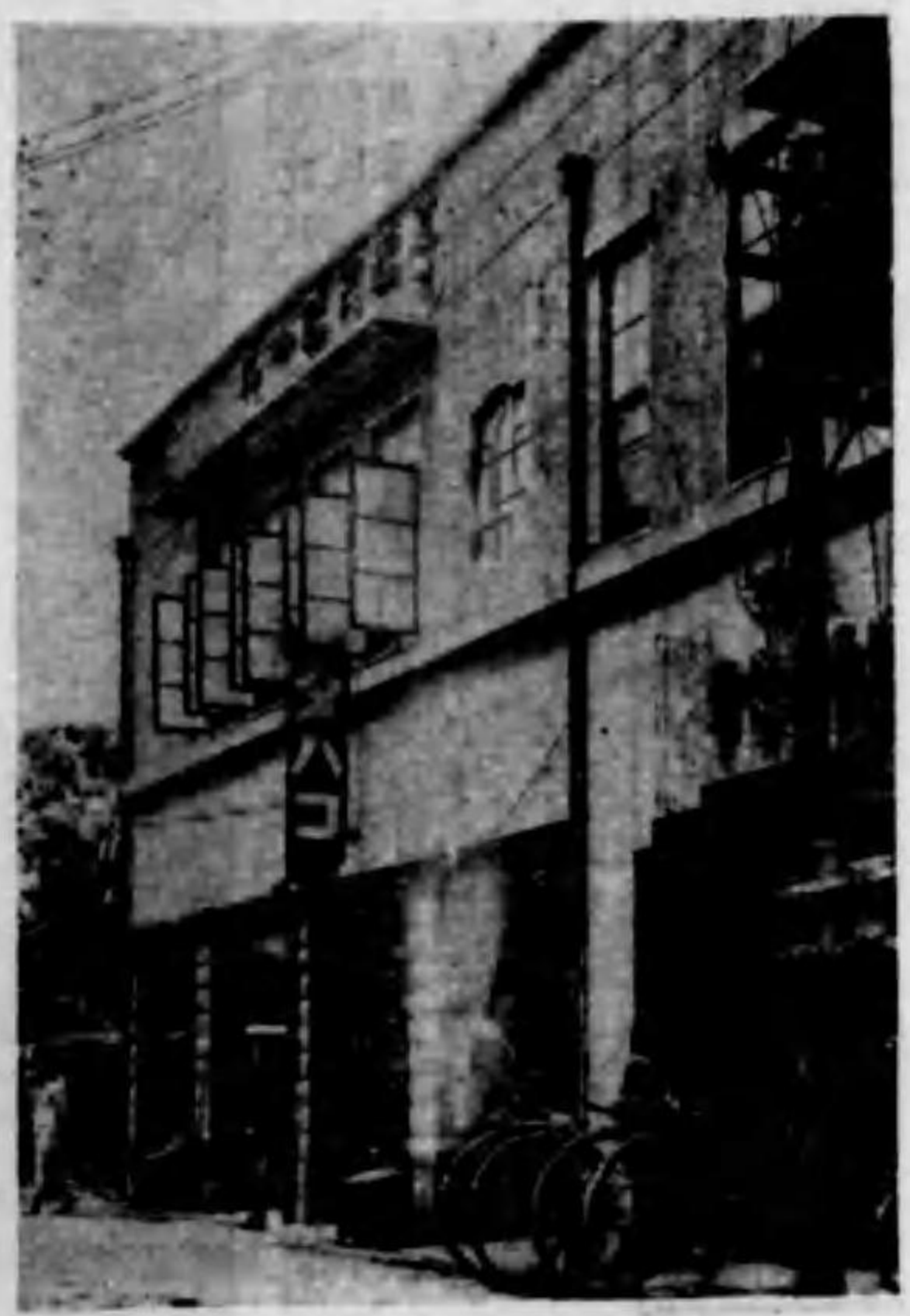
其ノ他	三	三	五	一、一八
計	五	四	二〇	九、七

臺灣三成協會嘉義支部

△ 嘉義厚生舍

臺灣三成協會嘉義支部嘉義厚生舍は財團法人として設置せられ昭和八年六月十日誕生したものである。嘉義市山子頂五三、五四、五五番地にある。從來財團法人臺灣佛教龍華會の經營であつたが昭和八年六月財團法人臺灣三成協會嘉義支部之を繼承し昭和九年一月、現在の場所に移轉増築し一面地方保護事業の統制を圖ると共に、出所者の再犯豫防と身心更生に努力を傾注してゐるのである。

場 市 西



△ 經濟保護施設としての市場

東市場		西市場	
設	備	設	備
敷地	三二	敷地	一五
建坪	六四	建坪	七
鳥獸肉	三	鳥獸肉	三
野菜	九	野菜	二
果物	三	果物	一
生魚	一六	生魚	三
飲食店	三	飲食店	三
荒物	六	荒物	一
其ノ他	五	其ノ他	四
計	一五	計	一三
各商人	七、三、六	各商人	七、三、六
高料使	一、八、七	高料使	一、八、七
費用	一、八、七	費用	一、八、七

第十章 警 備

△ 警 察

昭和十一年五月現在

種 別	昭 和 十 年 中 被 害 件 數		檢 舉 件 數	
	種 別	數	種 別	數
強 盜	四八四	一	強 盜	三三〇
詐 欺	三九三	一	詐 欺	三八〇
恐 嚇	一三	一	恐 嚇	一三
橫 領	六九	一	橫 領	六五

△ 消防と火災

第十一章 官公署其他銀行、會社、組合

官公署	責任者	電話
嘉義郡役所	江口幸一郎	二一
臺南地方法院嘉義支部	渡邊善成	二二
全檢察局	小田村元彦	六〇〇
稅務署嘉義出張所	松村勝俊	六〇〇
營林所嘉義出張所	橫田道三	四一〇
專賣局嘉義支局	長友綠	三七
臺南州刑務所嘉義支所	江口乙操	五七
嘉義警察署	本田乙松	四三一
嘉義郵便局	伊東增雄	一、〇〇二
全義前郵便局	花田保五郎	六六〇
嘉義醫院	關浪辰之助	八五〇
	鈴木惠二	一二
		一二九

保甲及保甲壯丁團

保甲及保甲壯丁團	保甲		保甲壯丁團	
	保數	甲數	正甲	長
壯丁團	五六	五六	五六	五六

月別	度數		住戶數		價損害見格	
	棟數	戶數	價損害見格	棟數	坪數	價損害見格
十二月	一	三	二七	一	〇	五〇〇
十一月	一	一	二	一	〇	〇
計	二	四	二九	二	〇	五〇〇

火災度數及被害種別

火災	度數		被害種別	
	住家	非住家	住家	非住家
火災	四	一	一八	二

昭和十年中

嘉義機關庫	嘉義保線區	中央研究所嘉義農事試驗支所	民事調停出張所	臺南州米穀檢査出張所	嘉義中學校	嘉義農林學校	嘉義高等女學校	嘉義旭尋常高等小學校	嘉義商工專修學校	玉川公學校	東門公學校	白川公學校	北社尾公學校	嘉義女子技藝學校
入江征記	三雲晴	平間惣三郎	佐竹文六	後藤丈日兒	森長整	島內庸明	新美省音	柚木滿彦	井上徳造	河野四郎	堀之内武義	田坂一人	金子一	柚木滿彦
二三	二三	三三四	八四〇	八一六	八〇五	三四二	七四四	一一三	三〇〇	八二一	八二二	一一四	一一四	六二五

嘉義若葉尋常小學校  
中村芳衛

嘉義駐在記者並支局一覽

1 臺灣日々新報支局	電話 三〇	島田楠吉
2 臺南新報支局	六七	神代民衛
3 臺灣新聞支局	一五	廣川英一
4 臺灣新民報支局	一〇六	陳天階
5 東臺灣新聞支局	一一九	小島依砂
6 南瀛新報支局		岡山登喜正
7 昭和新聞社長	五	徐乃庚
8 全支局	六	蘇茂山
9 南日本新聞支局	三三	安倍安吉
10 臺灣實業界支局		藤上利徳
11 臺灣時事新報支局	三五	鹽見芳四郎
12 新高新聞支局	電話 一四	古川新造
日本國防新聞總社		
13 經濟タイムス支局	七〇	伊藤旭
14 臺灣パツク支局		西尾春治
15 經世新聞支局		松井喜一郎
16 東亞新聞支局		鐘聯翹
17 臺灣公論支局	七二	林森
18 廈門新聞支局		白善允
19 高雄新聞支局	一一七	檜物谷鐵五郎
20 南海時報支局		陳安枝
21 新竹旬報支局		

銀行會社團體

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
愛國婦人會嘉義市分會	青果拓殖株式會社	嘉義軌道株式會社	嘉義商業協會	嘉義聯合會臺灣支部	糖業聯合會臺灣支部	嘉義材友會	日本食料工業株式會社嘉義營業所	臺灣合同鳳梨會社第十六工場	嘉義消費防組	臺灣電燈株式會社	臺南州青果同業組合	嘉義郡水利組合	臺灣商工銀行嘉義支店	臺灣銀行嘉義支店
鳥海やまと	莊啓鋪	勝田素章	徐乃庚	小西國平	瀧野讓治	山口良範	高里彦庫	園部藤三	森木茂德	鈴木留吉	西村留人	大津義平	山本八助	榎本彌之助
七四三	五一三	五三	二九	四三八	一二八	二三八	三三三	九一〇	一〇〇〇	五八	三一六	二二四	三八	二〇〇

△產業組合

22	21	20	19	18	17	16
國際通運株式會社嘉義支店	臺灣無盡會社嘉義支店	臺灣煉瓦株式會社嘉義工場	嘉義料理屋組合	嘉義檢香館	嘉義磷保館	帝國在鄉軍人會嘉義分會
福永喜太郎	秋吉惠壽	堀池義專	堀池義專	岸西達躬	小西國平	
四七	三〇五	三六	六三九	八〇四	四四〇	

7	6	5	4	3	2	1
嘉義倉庫信用購買利用組合	嘉義信信用組合	嘉和建築信用利用組合	嘉義建築信用購買利用組合	嘉義購買利用組合	嘉義小商工信用組合	羅山信用組合
北門町四ノ一六	榮町一ノ三〇	元町六ノ八五	元町三ノ五〇	檜町五ノ一六	榮町二ノ四九	北門町七ノ二三
	(呼出)	一〇一七	一〇三二	六五五	一〇〇五	二九
四四四	五三一					四五八

新 高 の 雪	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
嘉 義 梨 蜜 餠	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
鳳 梨 蜜 餠	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
新 高 饅 頭	光	光	光	光	光	光	光	光	光	光	光	光	光
吳 鳳 羊 羹	光	光	光	光	光	光	光	光	光	光	光	光	光
雲 海 松 風	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
嘉 義 の 里	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
パ、イヤ酒粕漬 マンゴー罐詰	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
一刀彫蕃人々形	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
嘉義阿里山名所皿	嘉義新高阿里山案内社	嘉義新高阿里山案内社	嘉義新高阿里山案内社	嘉義新高阿里山案内社	嘉義新高阿里山案内社	嘉義新高阿里山案内社	嘉義新高阿里山案内社	嘉義新高阿里山案内社	嘉義新高阿里山案内社	嘉義新高阿里山案内社	嘉義新高阿里山案内社	嘉義新高阿里山案内社	嘉義新高阿里山案内社
蕃產物其他土産 品專門販賣	阿 里 山 屋	阿 里 山 屋	阿 里 山 屋	阿 里 山 屋	阿 里 山 屋	阿 里 山 屋	阿 里 山 屋	阿 里 山 屋	阿 里 山 屋	阿 里 山 屋	阿 里 山 屋	阿 里 山 屋	阿 里 山 屋
	榮町三丁目	榮町三丁目	榮町三丁目	榮町三丁目	榮町三丁目	榮町三丁目	榮町三丁目	榮町三丁目	榮町三丁目	榮町三丁目	榮町三丁目	榮町三丁目	榮町三丁目
	一〇三七	一〇三七	一〇三七	一〇三七	一〇三七	一〇三七	一〇三七	一〇三七	一〇三七	一〇三七	一〇三七	一〇三七	一〇三七

阿 里 山 饅 頭	日 向 屋	北 門 町 七 ノ 二 〇	一、 四 〇 六	芝 居 (臺 灣 芝 居)	南 氣 座	南 門 町 四 ノ 一 三	一、 二 一 〇	映 畫 專 門	電 氣 館	榮 町 四 ノ 一 六	一、 一 〇 〇	映 畫 と 芝 居	嘉 義 座	北 門 町 七 ノ 一 九	一、 一 六	寫 眞 撮 影	全	金 子 寫 真 館	榮 町 五 ノ 九	一、 〇 三 四	寫 眞 機 並 材 料、 燒 付、 現 像	三 浦 商 會	榮 町 二 ノ 四 七	一、 〇 五 七	

### 第十二章 觀光關係店名紹介

11 嘉 義 銀 座 建 築 信 用 購 買 利 用 組 合	10 臺 南 州 米 穀 信 用 販 賣 利 用 組 合	9 嘉 專 購 買 組 合	8 營 嘉 購 買 組 合																						
榮町三ノ五〇	榮町七ノ六	西門町八ノ一五	新高町一・二〇																						
(一、〇四一)	(一、〇四一)	(一、〇四一)	(一、〇四一)																						
四三四	四三四	四三四	四三四																						

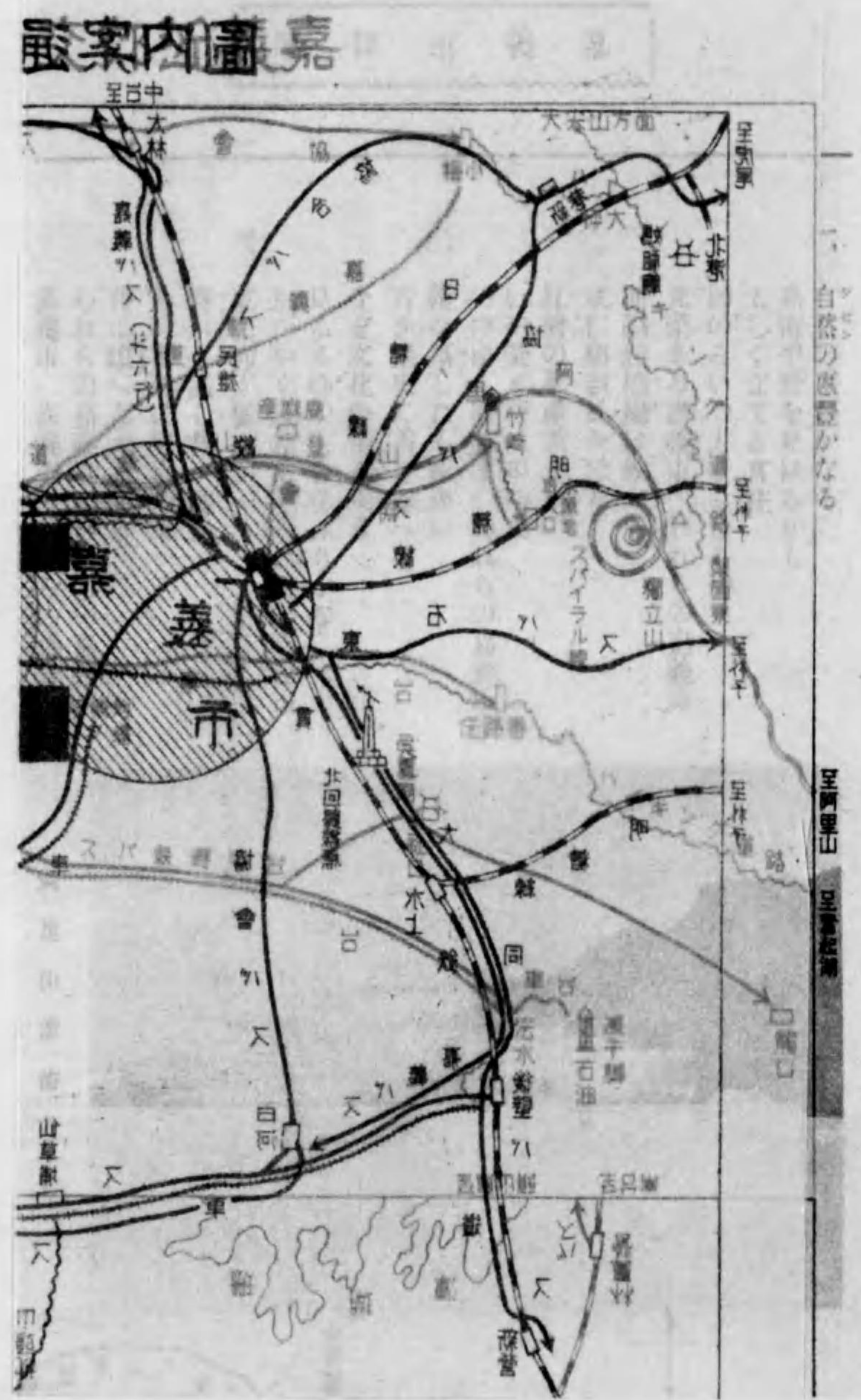
觀光

第十三章 觀光

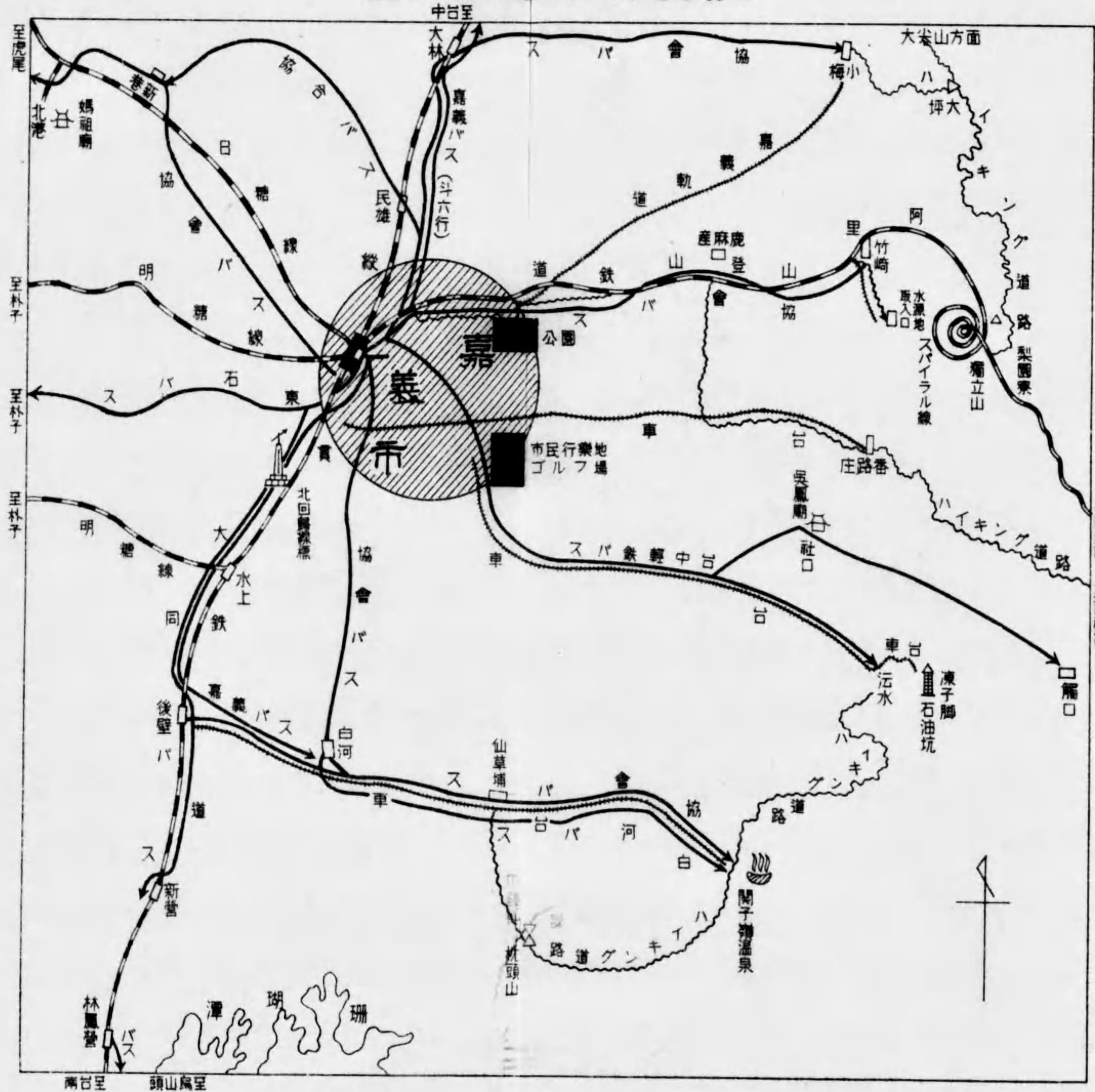
嘉義農林の三族混合の強力野球チームの名に於て餘りにも有名となつた我嘉義市。本市は東に阿里山、新高山の中央大山脈を擁し、西に嘉南の大平野を招え、東の山産物（木材、竹材其他）、西の米、甘蔗、甘藷、等の農産物と共に臺南州北部六郡の産業、交通の中心地となつてゐる。加ふるに近郊には關子嶺温泉あり、吳鳳廟あり、北港媽祖廟あり、新高阿里山への登山口である。而かも又嘉義を中心とする中部臺灣の製糖工場十數工場の中樞をなし、近く又飛行聯隊の創設せらるゝあり、凍子脚油田の噴出と共に、明日の大嘉義市建設にあつては、文字通り好材料が山積してゐる。而して又、嘉義は其位置、北緯二十三度二十七分四秒五一の北回歸線上にあり熱帯と暖帯との境目におかれ氣象上においてもその分岐点にある。かゝる位置と使命の下におかれた本市が、觀光に乘出して力を入れるのは當然の事であらう。

新高山、阿里山の登山に關しては、阿里山國立公園協會を設立してこれが宣傳、紹介等に努め、別に又嘉義地方振興協會を設立し、産業、交通、經濟の市政をして一層その能力を發揮せしむる機力をかけつゝある。觀光嘉義市は全市民の自覺と全島一の美人郷を以て遍れく全日本によびかけんと準備おさくゝ忘れない。

嘉義銀座



# 嘉義近郊交通案內圖



敷工場の中幅をなし、近く又飛行聯隊の創設せらるゝあり、凍  
 子脚油田の噴出と共に、明日の大嘉義市建設にあつては、文  
 字通り好材料が山積してゐる。而して又、嘉義は其位置、北緯  
 二十三度二十七分四秒五一の北回歸線上にあり熱帯と暖帯との  
 境目におかれ氣象上においてもその分岐点にある。かゝる位置  
 と使命の下におかれた本市が、觀光に乘出して力を入れるのは  
 當然の事であらう。  
 新高山、阿里山の登山に關しては、阿里山國立公園協會を設立  
 してこれが宣傳、紹介等に努め、別に又嘉義地方振興協會を設  
 立し、産業、交通、經濟の市政をして一層その能力を發揮せし  
 むる機力をかけつゝある。觀光嘉義市は全市民の自覺と全島  
 一の美人郷を以て遍れく全日本によびかけんと準備おさ／＼忘  
 りない。

義銀座



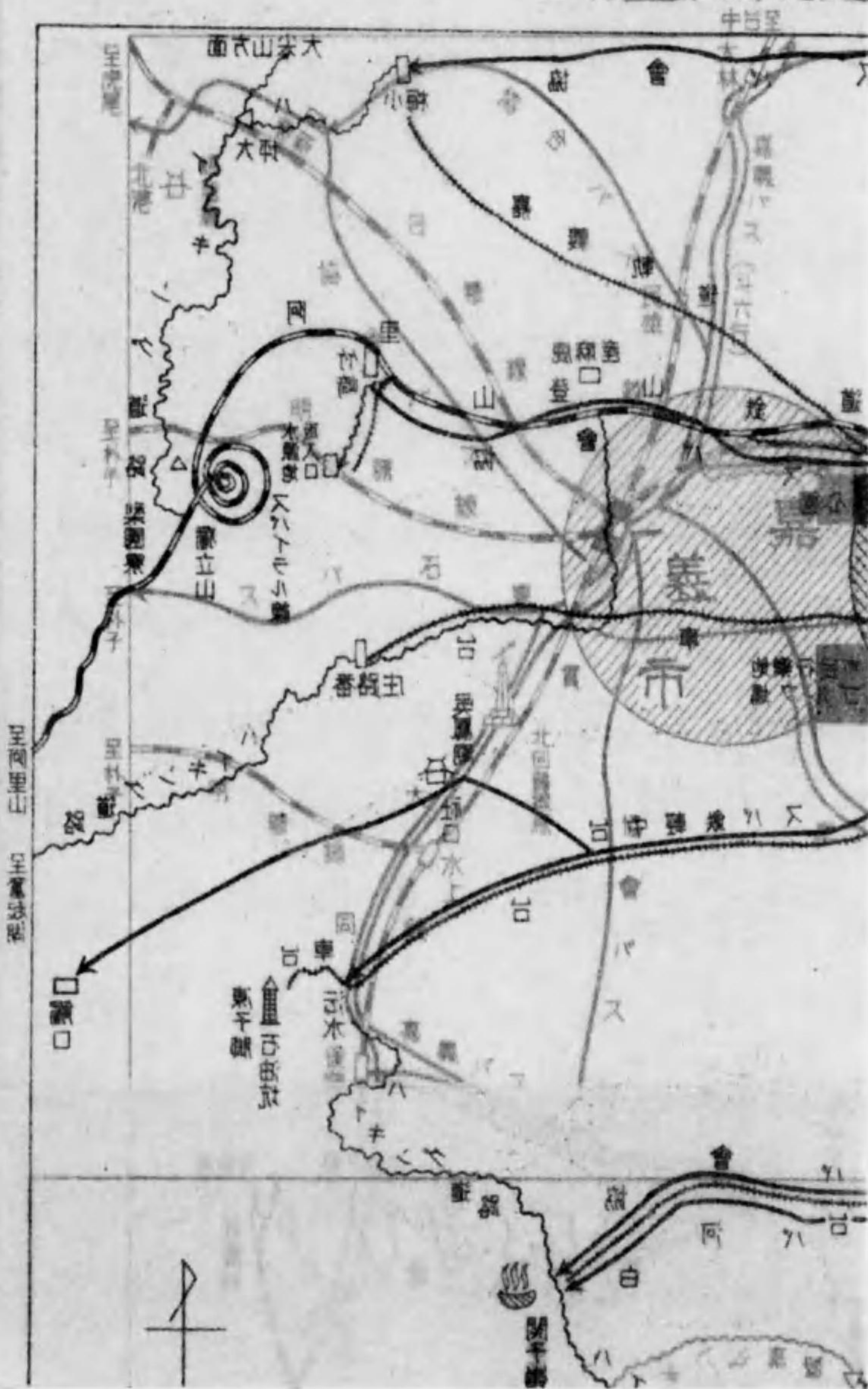
嘉 義 市 民 歌

- 一、自然の恵豊かな  
嘉南平野を見はるかし  
太しく立てる宮柱  
神のみいづもかしこしや
- 二、光榮ある嘉義市 われらの嘉義市  
回歸線標陽は映えて  
成仁廟頭風かほる  
紅檜の都産業の  
いや榮え行く中心地  
のびゆく嘉義市 われらの嘉義市
- 三、古き歴史に香を添へて  
今ぞ文化の華も咲き  
見るもゆかしき手ぶりかな  
かがやく嘉義市 われらの嘉義市
- 四、東に仰ぐ新高の  
啓示も高し我が理想  
その實現に努めつゝ  
共に頑へん大嘉義市  
われらの嘉義市  
嘉義市 嘉義市 われらの嘉義市



阿里山雲海

交通と嘉義







### 近郊遊覽案内

#### 吳鳳廟

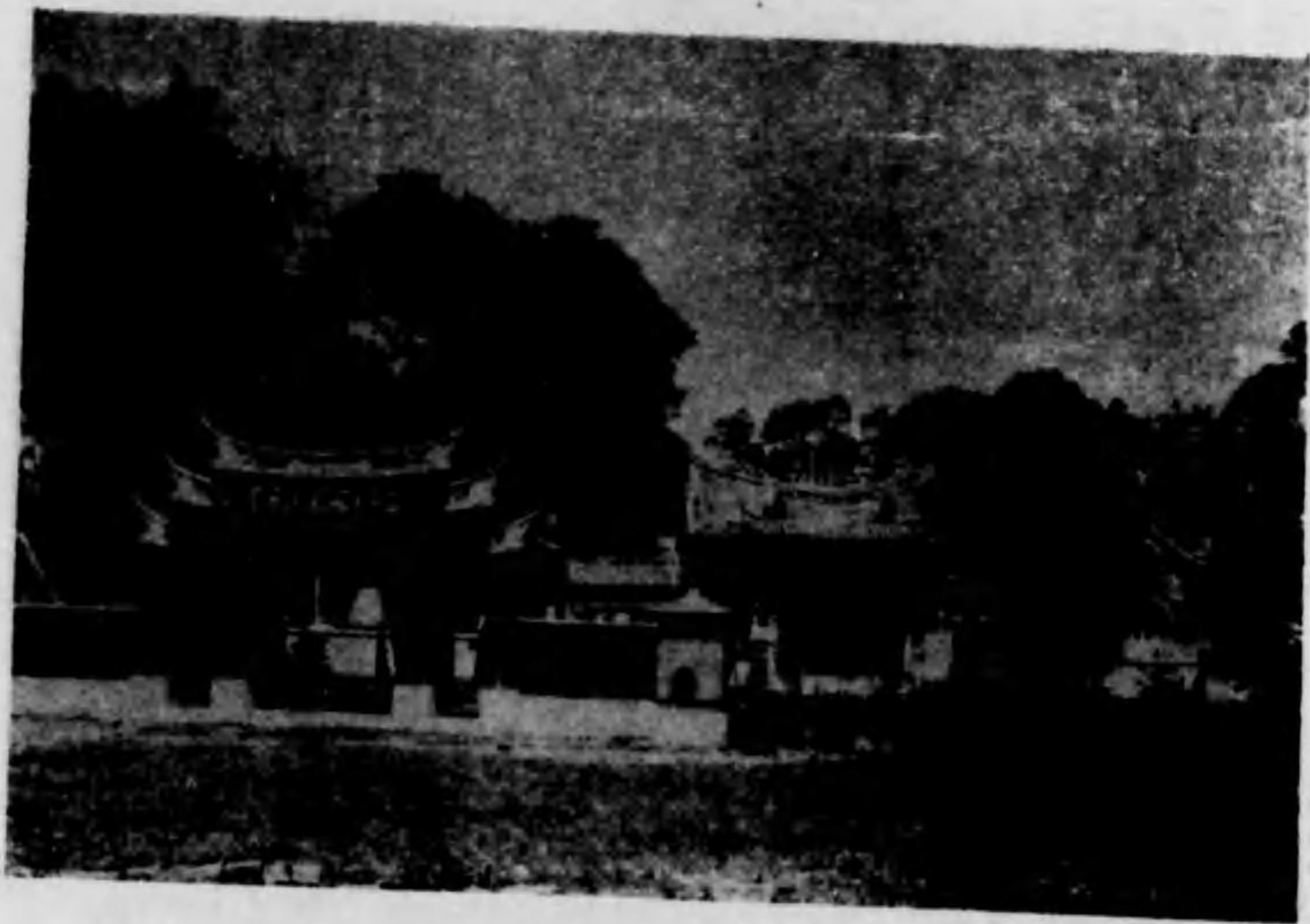
嘉義——バス——↓社口

臺中輕鐵バスの路線である。時間は往復二時間を要する。費用は一圓八〇錢である。市内南門町より乗車する。嘉義市の東南約三里余の地點にある。

嘉義郡中埔庄社口にある。阿里山蕃の誠首の弊風を、身を殺して矯め直した義人である。今より約百數十年前清朝時代の事であるが、爾來阿里山蕃はびつたり誠首を自發的にやめ、今日に及んでゐる。吳鳳の「殺身成仁」の徳偉大なりと云ふべしである。

小學校の教科書第五學年の本に出てる。概略は全く教科書に記載せられてある通りである。當市を訪れる人々は、必ず吳鳳廟に詣でる事を以てそのスケヂュールの主なるものとしてゐる。

「龍宮の氣で親しめる吳鳳廟」 角戀坊



#### 關子嶺溫泉

關子嶺溫泉は、枕頭山、虎頭山、鷲鳳山等の山々に圍まれ、清流は此等の山間に源を發し、眞に山紫水明の名に背かしまない南部第一の溫泉郷である。明治三十一年に發見され、現在は旅館、浴場の設備も整ひ旅情を慰めるに充分である。泉質鹽類炭酸泉。

關子嶺ホテル、吉田屋、洗心館、熊本屋、清秀館

臺南州立聽水館、警察官療養所等がある。

宿料 一圓五十錢——↓二圓

- 1 嘉義驛より協會バスにて一時間半
- 2 嘉義驛より縦貫線の下り列車で後壁驛下車、そこから乗合バス。併し協會バスで直接行かれるのが便利です。



「關子嶺旅の疲れを湯に忘れ」 角戀坊

珊瑚潭

コース

- 1 嘉義驛<sup>鐵道</sup>→林鳳營驛<sup>バス</sup>→烏山頭 (タクシー十四)
- 2 (下り列車)<sup>鐵道</sup>→番子田驛<sup>バス</sup>→烏山頭

會文郡官田庄烏山頭に高さ百八十五尺(標高二百二十尺)頂部延長七百間、同幅三十尺、側法平均三割の「セミ、ハイトロツタ、ファイルダム」を築き官田溪をメ切自然の溪谷を利用して、一大貯水池たらしめたもの。

其の形が丁度珊瑚狀をなしてゐるので此の人工湖を珊瑚潭と名稱した貯水量五十五億立方尺。貯水面積一億一千万平方尺。

臺南州下の大平野で水利施設が從來殆んど絶望視されてゐた十五萬甲歩(一甲歩二九三四坪)の灌溉排水がこのために可能となり眞に沃野千里の名に恥ぢない所となつたのである。此の珊瑚潭の竣功により米は四十六萬二千余石の増收となり砂糖に於て二億四千二十六萬四千余斤の増收を得る様になつた許りでなく、一夜にして荒蕪地は肥沃な良地となり地價は數倍の騰貴を招來した。ために九千五百四十二萬六千余圓の収益を算するに至つたと云はれる。區域内十萬戸五十萬人の住民に對して、昔日に比すべくもない福利を増與せしめるに至つた。

此の珊瑚潭人工湖建設のため工費五千三百八十八萬四千七十八圓を費し十ヶ年の歳月をかけて昭和四年に竣功したのである。世に所謂嘉南大圳工事といふのは、此の珊瑚潭を中心とする灌溉排水兩路の設置工事に外ならない。風景佳絶、悠々湖畔に水鳥の啼き聲を楽しむのも又詩情をそゝる一つであらう。

麻豆文旦

嘉義-番子田-麻豆 金四圓用意

臺灣特産物で有名な文旦はこゝから出る。麻豆文旦と云へば文旦の最高級品をさすものである。

臺南州會文郡麻豆街を中心として一帯に栽培されてゐる。今から百三十年前黄權と云ふ者が發見したのにはじまる。麻豆本場の文旦を味はずしては臺灣の果物は語れない

西螺ザボン

嘉義-斗南-虎尾-西螺 往復二圓餘

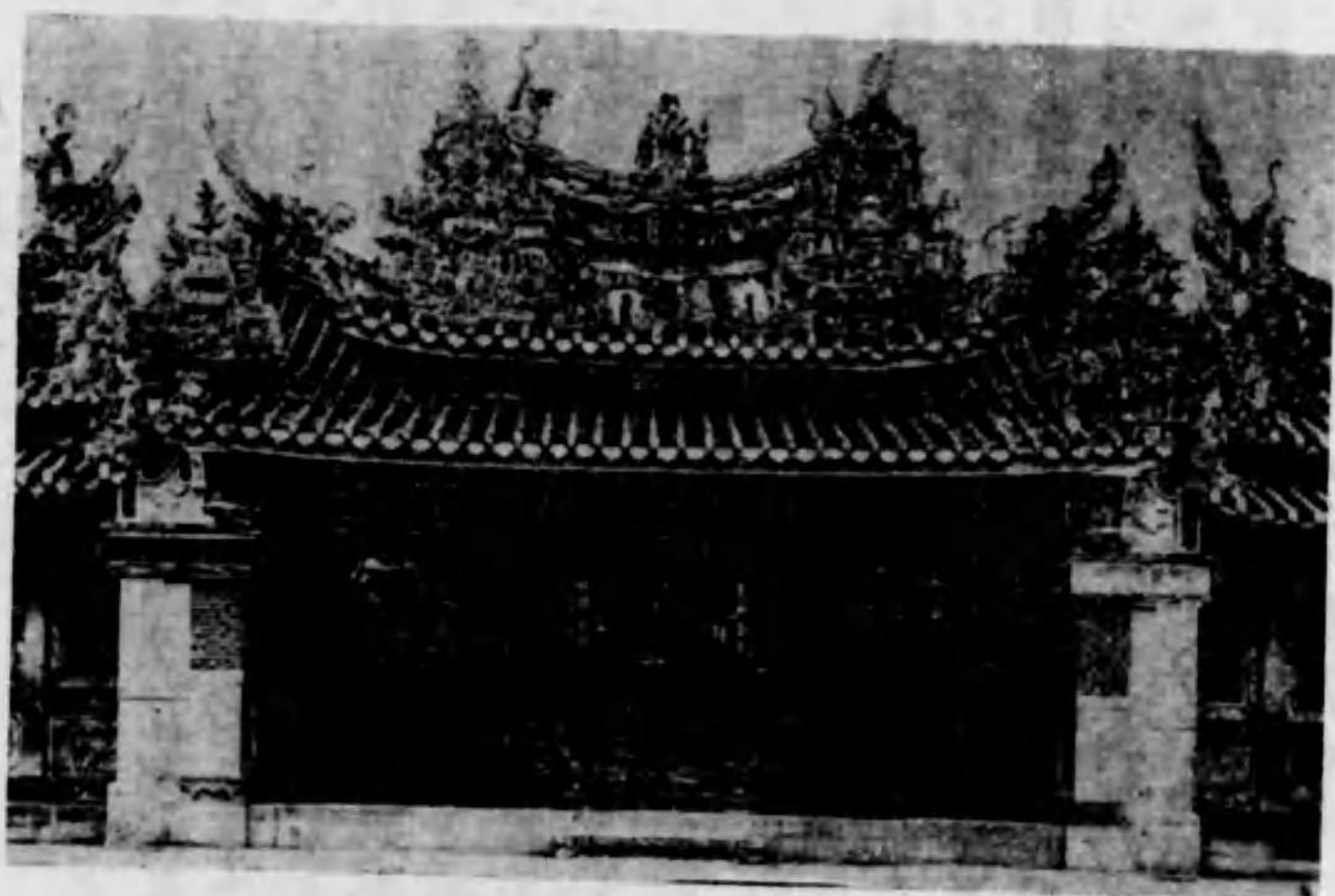
西螺朱樂を知らずして臺灣の柑橘類を語るの不用意である。今から百三十年前黄權と云ふ者が發見したのにはじまる。麻豆本場の文旦を味はずしては臺灣の果物は語れない

營林所工場



阿里山より搬出される年産十五萬石の木材は、工場構内に設けられる一萬六千坪の貯水池に投入せられ、三噸の起重機と、十六噸の架空捲上、機に依つて操作せられ、工場に搬入、經數尺の長大なる木材は大小無數の帶鋸、圓鋸等によつて忽ち板となり柱となつて送り出される壯觀は、全く言葉に表はしがたいものがある。市内バス營林所前下車十錢

北 港 媽 祖 朝 天 宮



嘉義↑ バス四十五錢

往復八〇錢

↓北港

時間は片道五十分を要するが、坦々たる道路上をすべるが如く走るバスの乗心地は満点といつてよい。近く舗装（アスファルト）道路の計画があり、いよいよ以て快適のコースたるは疑ひない所。

臺南州北港郡北港街の中程にある。廟宇結構華麗を極めて全島媽祖の總本山で、全島から、春の大祭に参集するもの十數萬人。平日といへども参詣者の途絶えた事はない。

嘉義地方振興協會バスが二十分毎に北港に向けてスタートするので交通至つて便利である。別に大日本製糖會社の北港線に乗るのもよい。北港街道に沿ふてゐる。

嘉義↑ バス三十五錢

往復六〇錢

↓新巷

嘉義より約四十分位で達する事が出来る。媽祖奉天宮と云ふ。こゝも亦ながく信仰の厚い廟宇である。有名な新巷餅はこゝから出る。北港媽祖朝天宮参詣の途次、こゝに下車して参詣する。

北 回 歸 線 標



嘉義市の南方三哩、縦貫鐵道の沿線にあります。

明治四十一年十月建立。

北緯二十三度二十七分四秒五一

東經百二十度二十四分四六秒五

白亜の北回歸線標がたゞ見る嘉南大平野の綠園一帶の稻田の中に中央大山脈をバックとして立つてゐる景觀はこゝ々に來てはじめて味ひうるものである。こゝで暖帯と、熱帯が分たれてゐます。日が暮れて遊び疲れた白鷺の大群が此の白亜の標上を夕陽を浴び乍ら中央大山脈に向つて歸つて行くその姿態！

「吾能く來つる哉！」と叫ばずには居られません。震災のため損傷、暫く其儘でしたが今回改修を加へ、昭和十年九月中旬スマートな白亜の姿に生れ代りました。上部の矢印は北回歸線の方角を示したものです。

**小梅ヨリ大坪へ**

ハイキング、コース

嘉義→バス→民雄→バス→大林→バス→小梅  
徒歩コース  
小梅→大坪

往復三圓の費用を要す

日曜日の早朝嘉義バスで出發し、小梅行の終點で下車、大坪へのドライブ、ウェイ（道丈で未だ自動車は通つてゐない）を約二里弱をハイクするのであるが、此のコースは殆んど山道で坦々たる上りである。嘉南平野を一望に眺め、嘉義市は指顧の間に見る事が出来る。杉並木が大坪にあつて平地の人には珍らしい。

**竹崎庄水道取入口附近ピクニック**

嘉義→バス→竹崎→台車→水道取入口  
徒歩コース

嘉義、竹崎間は振興協會バスが營林所のガソリンカーで行く。竹崎から取入口迄は一里そこ〜で徒歩でも大した事はない。子供連れの方は台車に

ぐ北方にある。

費用 往復→一圓から一圓五十錢

**三條崙海水浴場行**

嘉義→バス→北港→バス→三條崙

費用 往復 一圓

嘉義地方振興協會バスが本年七月十日頃から往復一圓で直通連絡をする事になつてゐる。五千餘圓の休憩所を建設し、浴客の來るを待ちもつてゐる。

附近の貝類養殖場に交渉して貝取りに興ずるのも面白い。ハマグリが多くさん砂中に棲息してゐるとの事。秋から冬へかけての一日の散策は素適である。

**枕頭山ハイキングコース**

嘉義→バス→仙草埔→徒歩→枕頭山→徒歩→關子嶺→バス→嘉義

往復 一圓半の費用を用意されたい。

のつて行かれる事にした方がよい。

牛稠溪畔の台地を山峽傳ひに行く。溪流の冷風と山氣とで爽快此上もない。家族連れのピクニック、コースとしておすゝめする。

費用 バス又はガソリン、カー 往復二圓半  
台車等あり

**凍子脚油田附近**

ハイキング、コース

嘉義→バス→沘水→台車→凍子脚  
又は徒歩

今日問題の凍子脚油田行は、絶好のハイキング、コースとしておすゝめしたい。凍子脚迄、沘水より八〇〇米で、台車があるが、ハイクする事によつて山の氣分を味ふ事にした。かへりだけ台車を利用して一氣に沘水迄下山するのも面白い。石油坑の見學と此の附近の銳角状の山貌を眺めるのも一興である。林業試験所の試験地が沘水の

朝六時にバスにのつて、仙草埔で下車、徒歩で枕頭山にハイクする。ドライブ、ウェイの坦々たる道だから樂なものである。八時には頂上に達する。運のよい人は枕頭山と背面の無名山の間に雲海を見る事が出来るだらう。それから徒歩で關子嶺へは、漫歩約一時間半位しか、ゝらぬ。温泉にひたり晝食をとり、ゆつくり休んで夕方バスでかへる。

**獨立山ピクニックコース**

嘉義→バス→梨寮園  
登山列車

費用 往復 雜費を入れて三圓半用意される事  
登山鐵道に乗り（朝北門驛八時三分、嘉義驛は七時五十分）獨立山のスパイラル線を味ひ、梨寮園で下車、見晴台まで一寸徒歩で行く。嘉義市をながめ、數時間を山の氣にひたる。

**壽島海水浴場行**

嘉義<sup>バス</sup>——壽島海水浴場

費用 往復 一圓 (東石バス)

暑い夏には市民にとつてなくてはならぬ水浴として北港の三條崙と共に皆様におすゝめして止まぬ。万端の設備が整へられてゐる。

**大尖山ハイキングコース**

小梅迄バスで行き、大坪から幼葉林の上側の尾根傳ひに大尖山に登るのが一番樂であらう。阿里山方面新高の尾根一帯はさながらパノラマの如く眼前に展開する。ひろがへつて大尖山頂から西を見るならば、一帯帯水の臺灣海峡は眼下遙かに水平線を見せ、西臺灣の太平洋は際涯なく南北にひろがつて見える。往復共同じ道をとつてもよし。大尖山からすぐ直下の太湖底に下り、炭頭層まで歩いてからバスで斗六街に出で、こゝから嘉義迄汽車でかへるのもよい。費用五圓とみて、一泊

する事をすゝめる。(小梅行バスは協會バス)

**交力坪ヒクニックコース**

登山列車  
嘉義——交力坪(カラビン)

費用 往復 三圓半を注意の事

竹林多く、見事な瀑布も亦一里半許りの溪谷にある。春は竹の子狩りをする。蕨狩りをする。絶好の所である。獨立山行と共にすゝめする。

**番路庄——番起湖蕃界ハイキングコース**

嘉義——番起湖——ハイキング地帯

番路庄——嘉義

一泊がけのコース。費用約五圓を用意されたい。番起湖で一泊。營林所のクラブで三食一泊二圓である。

**新高阿里山案内**

▲印ハ宿泊箇所

コース紹介、日程費用概算



驛名及海拔勾配

驛名	海拔	累計勾配	勾配
嘉北	304	0	0
義門	81	1.6	1.60
橋	56	7.4	1.60
鹿	82	10.8	1.50
行	127	14.2	1.50
木	323	18.8	1.50
樟	536	23.1	1.50
立	741	27.2	1.50
力	905	31.8	1.50
交	997	34.6	1.50
水	1,185	40.8	1.50
起	1,405	45.4	1.50
路	1,517	50.7	1.50
十	1,534	55.1	1.50
平	1,720	60.5	1.50
第一	1,827	62.7	1.50
二	1,999	66.6	1.50
神	2,150	69.2	1.50
阿	2,274	71.7	1.50
東	2,305	76.9	1.50
塔	2,346	76.2	1.50
山	2,309	78.6	1.50

市内旅館案内

- 1 青柳旅館 (一五圓、一〇圓、七圓、五圓、三圓半) (中、小、公學校其他團體を取扱はず)
- 2 嘉義ホテル (一五圓、一〇圓、七圓、五圓、三圓半) (團體歓迎)
- 3 大藤旅館 (一五圓、一〇圓、七圓、五圓、三圓半) (團體歓迎)
- 4 多加良館 (三圓半、三圓、二圓半、二圓) (團體歓迎) 尙御座算の御都合では如何様なる御相談にも應じます
- 5 江藤旅館 (二圓均一) (團體歓迎)
- 6 中和ホテル (四圓、三圓半、三圓、二圓半、二圓)

山地、ホテル、山莊案内

両ホテル共阿里山に於ける二大旅館で、協會ホテルは當市役所にある阿里山國立公園協會の直營である。左に宿泊料金をかゝけておいた。

阿里山甚句

嘉 義 山は新高、阿里山槍  
嘉義はよいとこ美人郷  
新高山 五州三廳一目に見えて  
山は新高日本一  
阿里山 阿里山よい所花見に避暑に  
のほりくだりは汽車の旅  
阿里山鐵道 七ツ八曲り阿里山鐵道  
積んだ槍に花が散る  
杣 雲の阿里山紅槍の谷に  
ひびく杣唄木挽唄  
神 樵夫唄から朝霧晴れて  
拜む紅槍の御神木  
タータカ情緒 嘉義を朝出てタータカ泊り  
二人寝て聞く鹿の聲  
雲 行きやれ阿里山雲海見やれ  
浪は七色躍る虹  
吳 鳳 歌の阿里山槍の蔭に  
残る吳鳳の語り草  
櫻 誰に咲いたか阿里山櫻  
深山がくれの色によさ

別に櫻花園(元新高旅館)と云ふ旅館がある。こゝは最高四圓で三圓、二圓、一圓半位で泊まれる。

阿里山國立公園協會直營

- 1 協會ホテル本館 六圓(洋室)五圓、四圓、三圓半、三圓、二圓半  
別館高山莊 辨當代五十錢、一圓、一圓半
- 2 阿里山ホテル 五圓、四圓、三圓半、三圓、二圓半  
辨當代五十錢、一圓、一圓半
- 3 櫻 花 園 四圓、三圓半、三圓、二圓  
辨當代五十錢、一圓
- 4 協會ホテル別館 三圓半、三圓、一圓  
鹿 林 山 莊 辨當代五十錢、一圓
- 5 新高下宿泊所 小屋料無料、一食ニ付七十錢  
毛布代一枚(ランプ代薪炭代ヲ含ム)三十錢

往復賃金	等 級	驛 名
五七〇〇	三等	嘉義より阿里山まで
二二〇〇	二等	
一七〇	三等	阿里山より新高口まで
一〇〇	二等	

阿里山國立公園協會

嘉義市役所庶務課内

昭和六年四月、新高阿里山一帯の地を島内國立公園たらしめんとする計畫の下に、嘉義市官民協力して設立されたのであるが、臺南州知事を名譽會長に推戴し、協會長に嘉義市尹、副會長に營林出張所長、嘉義郡守、民間側より一人計三人を依囑し、市助役が常任理事となつてゐる。

初代市尹政所重三郎氏が初代協會長となつて、協會事務所を嘉義市役所内に置き、宣傳事業に没頭して以來松岡 廣谷兩會長を経て川添現協會長に至る滿五年の歳月を閲してゐるが、此の間良く新高阿里山の觀光宣傳に努力して來た。創立當時は僅か數百圓の豫算で事業を遂行してゐた協會も、今では壹萬圓近くの費用を以て宣傳其の他の事業を遂行してゐる状態である。豫算の一部分は嘉義市並臺南州よりの補助を受け、大部分は地元有志者の寄附を仰いでゐるが、地元民の熱意も亦高まつてゐる。

嘗て新高阿里山の大型寫眞を作製し、全島主要都市で是が展覽會を開催して島内の宣傳價値を大ならしめ或は觀光繪葉書パンフレット等を通しての宣傳に是努めてゐるが、初代協會長時代に作製した映寫フィルムは今尚時折東京大阪等に於て映寫される事もある。昭和十一年夏太秦發聲映畫株式會社に依囑して嘉義市近郊阿里山新高山一体の撮影を了し近く封切の豫定である。更に川添協會長に依つて、機關誌「新高阿里山」の創刊號を發行し、既に八號を刊行した。

昭和九年阿里山上沼の平に建つ營林所所管の建物、元阿里山俱樂部を借受け、協會ホテルと名付け協會直營として登山客の慰安・休息・宿泊に供することとなり、同じくタータカに臺南州が企劃建設した鹿林山莊の譲渡をも受け、管理人をして同じ目的の下に經營させてゐるが、協會事業はいよいよ多事多端である。

嘉義地方振興協會と産業の嘉義市について

交通、産業、文化急激なる市勢の發展を遂げ州下北部、六郡の中心都市たる當市は、逐年市財政の急激なる膨張を來し市政は愈々複雑となり、その運用やもすれば行詰の感ある状態にある許りでなく所謂消費都市としての、當市の現状にかんがみる時、隣接郡部八十万民衆との間における産業經濟、交通等各般の連絡は當市々政の根幹を成すと共に、郡部の盛衰消長と頗る緊密なるものがある。

茲に於て、當市本然の環境と其の將來に想到する時、互に一段制度施設等各般に就き劃策以て市勢進展の完璧を期さなければならぬ。即ち當市々政の一助成機關として市勢振興を圖り、併せて隣接各郡街庄の振興に貢献する目的を以て昭和十年六月二十四日創設されたものである。現在本協會は總務部、産業部、自動車部を設けて所期の目的達成に努めてゐる。特に自動車部は、北港線、小梅、白河、關子嶺、竹崎等各一線を配し統制上一新紀元を劃してゐる。産業部に於ては本年度に嘉義觀光物産紹介所を開設し、當地方物産紹介取引の幹施に努め觀光都市としての機能發揮に全力を傾けてゐる現状にある。

嘉義

名物、たべもの紹介

- |           |          |
|-----------|----------|
| 1 嘉義の里    | — 近郊 —   |
| 2 嘉義餠     | イ 西螺ザボン  |
| 3 吳鳳餠     | ロ 麻豆文旦   |
| 4 吳鳳羊羹    | ハ 麻豆白柚   |
| 5 鳳梨蜜餞    | ニ 龍眼     |
| 6 阿里山饅頭   | ホ 阿里山大根  |
| 7 雲海松風    | ヘ 阿里山路   |
| 8 竹羊羹     | ト 阿里山産椎茸 |
| 9 新高の雪    | チ 奮起湖産三葉 |
| 10 愛玉子    | リ 阿里山産炭  |
| 11 乾龍眼    | ヌ やまいも   |
| 14 マンゴー罐詰 | (阿里山産)   |
| 13 パツシヨン  |          |
| 14 新巷餠    |          |



**嘉義ゴルフ、リンクス紹介**

嘉義公園の東方嘉義平野を一望の裡に收め得る景勝の地にある。總面積 一一二、九五九坪コース數九ホールス、總延長 三、二四〇ヤードの變化に富む。全島有數のコースである。設計者は斯界のオーソリチイ、赤星四郎氏、加沼正雄氏等である。嘉義ゴルフクラブが設置されてゐる。市内よりタクシーの便がある。料金往復二圓。時間にしては十五分位で達する事が出来る。左に概略を記しておく事に仕様。

- (イ) 九ホール 三三四〇碼
- (ロ) 入會金 五〇圓
- (ハ) 會費 但し當分二〇圓 月四圓
- (ニ) グリン、ファイ 島外 年六圓
- (ホ) ヴイチャター ウィークデー一圓
- (ヘ) キャデー 九ホールス十五錢

島内他州月十二圓

ホリデー二圓

**嘉義市部落振興會事業概況**

(教育課内)

當市に於ける部落の啓發振興を圖り、文化の向上に資する目的を以て昭和九年五月七日創設立したもので、尙全般的に指導の統制を期するため、促進會を設け、晝間に於て、實際的事業の指導に當る外、夜間には國語の講習に指導員をあて、目的達成につとめてゐる。尙實行事項を概説すれば、部落美化、マラリヤ防邊道路擴張及保全、堆肥豚舎建設、蔬菜栽培獎勵、農家々畜家禽の改良等、その他精神教育、弊風の矯正等にも及んで居る。事業としては左の如きものを施行してゐる。

- 1 部落會
- 2 國旗掲揚台建設
- 3 神宮大麻奉齊
- 4 就學率の向上
- 5 堆肥豚舎建設獎勵
- 6 堆肥製造指導
- 7 部落美化作業
- 8 下肥請負販賣
- 9 蓬萊米栽培獎勵
- 10 蔬菜栽培指導
- 11 養豚獎勵
- 12 部落道路補修
- 13 果樹苗配付
- 14 指道標建設
- 15 改良農具配付
- 16 マラリヤ防邊
- 17 家禽優良種卵分讓

昭和十一年十月二十日印刷  
昭和十一年十月二十五日發行

〔非賣品〕

嘉 義 市

嘉義市北門町四丁目一七六番地

印刷者 岡野初太郎

印刷所 加土印刷部

正 誤 表			頁
三	〇	昭 和 十 年 人 口	誤
奉 齊	〇 八	七 三 ・ 一 〇	
		行 施 病 人	
		七 三 ・ 一 八 〇	正
奉 齊		行 旅 病 人	

終

